

人工肛門・膀胱造設者の 生活と福祉

- 第1部 第7回オストメイト生活実態基本調査報告書
第2部 オストメイトに対する日常生活用具給付事業
等に関する調査報告書

平成 23 年 3 月

社団法人 日本オストミー協会

第1部 第7回オストメイト生活実態基本調査報告書

I. はじめに	1
II. 調査結果の概要	2
1. オストメイトの属性	2
(1) 性別	
(2) オストメイトのストーマ種別	
(3) 年齢分布	
(4) 手術後の経過年数	
(5) 要介護認定	
2. 身体障害者認定及びストーマ装具給付	5
(1) 身体障害者手帳給付状況	
(2) ストーマ装具給付券の給付状況	
(3) ストーマ装具給付額	
(4) 一ヶ月にかかるストーマ装具の経費（自治体給付額＋自己負担額）	
(5) 自己負担額	
(6) バッグ以外のストーマ用品の給付状況	
3. 社会の理解度及びET/WOCナースの受診	10
(1) オストミー情報の入手先	
(2) ストーマに関する社会の理解度	
(3) ET/WOCナースの受診	
4. ストーマ装具関連事項	13
(1) 二品型（ツーピース）と単品型（ワンピース）	
(2) 密閉型（クローズド）と開放型（ドレイン）	
(3) 使用中のストーマ装具の満足度	
(4) ストーマ装具を選んだ理由	
(5) バッグ（袋）の交換頻度	
(6) 二品型ストーマ装具のフランジ交換頻度	
5. 洗腸関連事項	19
(1) 洗腸法実施者数の推移（人工肛門のみ）	
(2) 洗腸の実施頻度	
(3) 洗腸器具の買い替え頻度	
6. 生活上抱えている問題や悩み	20
7. 国や自治体の福祉制度についての要望	20
III. 考察	23
1. 調査方法	23
2. 身体障害者福祉法及び介護認定関連事項	23
(1) 障害認定について	
(2) 要介護認定について	
3. 障害者自立支援法関連事項	24
(1) ストーマ装具給付状況	
(2) バッグやフランジ以外のストーマ用品給付状況	
4. 社会の理解度と自己認識	25
5. ET/WOCナースの受診	25
6. 生活上抱えている問題や悩み	26
7. 国や自治体の福祉制度についての要望	26
IV 終わりに	27
参 考 資料：第7回オストメイト生活実態基本調査票（質問票）	29

第2部 オストメイトに対する日常生活用具給付事業等に関する調査

I. はじめに	35
II 調査結果の概要	36
1. 日常生活用具（ストーマ装具）給付事業	36
(1) 給付基準額	
(2) 自己負担割合	
(3) 1回当たりの給付月数	
(4) 洗腸用具の給付	
(5) ストーマ用品（13品目）の給付	
(6) 高齢者入所施設等の入居者への給付	
2. 災害時のストーマ装具等の供給体制整備	38
(1) オストメイトの避難所	
(2) 避難所での装具備蓄	
3. オストメイト対応トイレの整備	39
(1) 公共施設でのトイレ設置状況	
(2) トイレの設備	
(3) 未設置市区町村の今後の計画	
III 考察と提言	40
IV 終わりに	42
参 考：オストメイトに対する日常生活用具給付事業等に関する調査（依頼文書・回答用紙）	43

第1部 第7回オストメイト生活実態基本調査報告書

I. はじめに

この調査は、我が国のオストメイトを対象にアンケート調査をすることにより、オストメイトの生活実態とニーズを把握するとともに、定期的に反復調査することによりその変化を観察し、これを基にオストメイトの生活向上を図るための協会活動及び政府や地方自治体への施策改善要求の資料とするものである。

調査設計に当たっては、過去の調査を検証し、今後継続的に変化を観察すべき基本項目は維持するとともに、調査項目の一部を見直した。なお、下記の通り今回は従来と異なる調査対象（サンプル）の抽出方法を採用した。

また、調査票の設計や調査方法の検討、調査結果の分析及び報告書の内容検討に当っては、当協会福祉部のメンバーに外部委員として下記の3名を加えた調査委員会を組織した。

本調査は厚生労働省の「平成22年度障害者総合福祉推進事業」による補助金と、コンバテック・ジャパン（株）の支援により実施した。

☆ 調査対象（サンプル）と調査手法

- * サンプル数 1,000 票
- * 回収数 572 票（内会員 368, 非会員 143, 無回答 61）
- * 回収率 57.2 %
- * サンプル抽出法
 - ① 協会全支部の会員名簿（平成22年3月現在）から半数の500を無作為抽出
 - ② 全国20のストーマ装具販売代理店にそれぞれ数を指定して、その顧客から合計500を無作為抽出し調査票を配布するよう依頼。

注：過去6回の本調査は、当協会の会員からのみサンプルを抽出していたが、今回初めて会員でないオストメイトを調査対象に加えることとし、上記のような抽出方法をとった。

- * 質問 質問票によるアンケート方式。
自由回答を極力避けることとした。
質問数はサンプル属性に関する質問8問を含め33問とした。

☆ 調査事項＜調査質問票は巻末に掲載＞

- * サンプル属性（ストーマを造設した年、満年齢、性別、会員・非会員の別、ストーマ種別、介護認定の有無）
- * 身体障害者認定とストーマ装具給付
- * 障害者自立支援法関連事項
- * ストーマ情報と理解度関連事項
- * ストーマ装具関連事項
- * 洗腸関連事項
- * オストメイトの社会的受容・認識
- * 生活上抱えている問題や悩み
- * 国や自治体の福祉制度についての要望

☆ 調査期間

平成22年11月10日～12月3日

- ☆ 調査委員会外部委員 進藤 勝久 当協会顧問医会代表、近畿大学名誉教授
伊藤美智子 日本創傷・オストミー・失禁管理学会
福元 真一 アルケア株式会社

調査委員会開催経過

平成22年10月9日 第1回 外部委員2名、福祉部員4名参加
調査の目的、内容、調査票の設計案を審議
平成23年2月2日 第2回 外部委員2名、福祉部員3名出席
調査結果の分析及び報告書草案を審議
平成23年3月26日 第3回 外部委員2名、福祉部員4名出席
調査報告書の活用及び補充調査の必要性を審議

II. 調査結果の概要

調査結果はいずれも回答数572を基準にしており、結腸人工肛門を「コロストミー」、回腸人工肛門を「イレオストミー」、人工膀胱を「ウロストミー」、人工肛門と人工膀胱両方の造設者を「Wストーマ」と表記する。なお、数値のほとんどが%表示だが、小数点以下の四捨五入の関係で、合計が100.0にならない場合がある。

1. オストメイトの属性

(1) 性別

男性と女性の比率の推移を表1に示す。概ね大きな変化はないと見られる。なお、今回の()は、非会員のデータを示す。

表1 性別 【単位：%】

調査時期	男性	女性
今回(平成22年)	63(68)	37(32)
第6回(平成19年)	61	39
第5回(平成16年)	64	36
第4回(平成14年)	65	35
第3回(平成11年)	61	39

(2) オストメイトのストーマ種別

ストーマ種別は、表2に示すように今回の調査では前回と比べてイレオストミーとウロストミーが増加し、コロストミーが顕著に減っている。なお、今回の()内は、非会員のデータを示す。非会員は、イレオストミーとウロストミーが多い。また、表には示さないが、一時的ストーマは全体で5.1%(会員3.3%、非会員10.5%)で、非会員の多さが目立つ。

表2 ストーマ種別の推移 【単位：%】

調査時期	コロストミー	イレオストミー	ウロストミー	Wストーマ	無回答
今回	62.6(55.2)	7.9(9.8)	19.6(24.5)	3.1(2.8)	6.8(7.7)
第6回	70.6	5.9	17.3	3.0	3.2
第5回	70.7	5.8	16.6	1.8	5.1
第4回	67.1	5.8	13.4	4.6	9.1
第3回	71.6	4.2	16.4	2.9	4.9

手術後の経過年数別にストーマの種類を表3に示す。オストメイト全体に占める割合は、コロストミーでは術後経過年数が長くなるに従い増加する傾向を示すが、今回の結

果ではその傾斜が強まっており、コロストミーの術後10年未満で顕著な減少を示している。反対にウロストミーは、前回同様に術後経過年数が長くなるとその割合は減少している。またWストーマの場合は、前回と反対に術後経過とともに減少する傾向を示した。イレオストミーに3年未満が非常に多いのは前回と同じだが、更に多く出ている。

表3 ストーマ種別と術後経過年数（括弧は前回調査）

術後経過年数	コロストミー	イレオストミー	ウロストミー	Wストーマ	無回答
3年未満	38.8(52.9)	15.0(11.8)	30.0(29.4)	6.2(0.0)	10.0(5.9)
3～5年未満	56.7(68.4)	3.0(8.7)	28.4(19.3)	4.5(1.8)	7.4(1.8)
5～10年未満	60.8(67.3)	6.4(3.3)	24.8(24.8)	4.0(2.6)	4.0(2.0)
10～20年未満	70.0(72.5)	7.5(5.0)	17.5(15.8)	1.9(3.3)	3.1(3.3)
20年以上	76.7(76.5)	8.6(8.8)	6.9(10.6)	1.7(3.5)	6.1(0.6)

(3) 年 齢 分 布

表4の年齢階層別の属性を見ると、全体の平均年齢は71.1歳と前回第6回調査時の71.9歳より若干下がっている。前回調査までは平均年齢が徐々に上がっていたのだが、今回の結果は、非会員をサンプルにしたためである。表には示さないが、非会員の年齢層別の割合は、40歳未満4.9%、40～49歳2.8%と会員より高く、80歳以上で14.7%と、会員よりもかなり低い。全体として70歳代の人が多く、次いで60歳代、80歳以上の順になり、これは会員・非会員共通である。

イレオストミーの平均年齢は62.5歳と若く60歳未満が37.7%となっている。逆に、70歳以上の高齢者割合はコロストミーにおいて全体より高く(65.5%)、ウロストミーは全体平均と同じ、イレオストミーとWストーマではかなり低い。

表4 年齢分布（無回答を除く。括弧は前回データ）

【単位：%】

年齢層(歳)		40未満	40～49	50～59	60～69	70～79	80以上	
属 性		平均年齢						
全 体		71.1 (71.9)	1.6 (0.5)	2.1 (2.3)	8.9 (8.8)	25.3 (23.2)	40.7 (42.5)	21.4 (22.6)
性別	男 性	71.5 (72.5)	0.9 (0.3)	2.0 (1.8)	7.7 (8.1)	27.5 (21.1)	40.7 (46.1)	21.3 (22.5)
	女 性	70.4 (71.0)	2.9 (0.8)	2.4 (3.2)	11.2 (9.9)	20.9 (26.6)	40.8 (36.9)	21.8 (22.6)
ストーマ種別	コ ロ ス ト ミ ー	72.4 (72.2)	0.8 (0.2)	2.0 (1.5)	7.3 (9.9)	24.4 (24.4)	41.4 (39.3)	24.1 (24.5)
	イ レ オ ス ト ミ ー	62.5 (66.5)	11.1 (2.6)	2.2 (10.3)	24.4 (12.8)	20.0 (15.4)	33.4 (46.2)	8.9 (12.8)
	ウ ロ ス ト ミ ー	71.1 (72.8)	0.9 (0.9)	1.8 (0.9)	6.3 (4.4)	28.8 (22.1)	42.3 (54.0)	19.8 (17.7)
	W ス ト ー マ	65.4 (73.0)	0.0 (0.0)	6.3 (5.0)	18.8 (5.0)	37.5 (15.0)	37.5 (45.0)	0.0 (30.0)

表5 年齢分布の推移

【単位：%】

過去4回の調査結果と比較するために、表5に40歳未満、40～64歳、65歳以上の年齢階層の割合を示した。

65歳以上の増加傾向が止まっているように見えるがこれも非会員サンプルの影響。今回の（ ）内は非会員のデータであり、若い方に多くなっている。

調査時期	40歳未満	40～64歳	65歳以上	無回答
今回	1.6(4.9)	20.8(22.4)	76.0(72.7)	1.7(0.0)
第6回	0.5	20.3	77.9	1.4
第5回	0.5	21.9	73.7	3.9
第4回	1.1	31.1	67.8	4.9
第3回	1.5	32.6	64.3	1.7

(4) 手術後の経過年数

術後10～20年未満の人が最も多いのは従来どおりだが、術後3年未満の人が今回は前回に比べ大幅に増え14%（平成14年・第4回並み）になった。反対にこれまで増加傾向にあった10年以上の人は、初めて減少している。その結果、手術から10年未満の人が10年以上の人と同じく全体の半数弱を占めることとなっている（10年以上の人は14%の減少）。なお、今回の（ ）内は、非会員のデータだが、左から2つの欄（術後5年未満まで）の割合が極めて高く出ている。

表6 術後経過年数の推移

【単位：%】

調査時期	3年未満	3～5年	5～10年	10～20年	20年以上	無回答
今回	14.0(32.2)	11.7(18.2)	21.9(18.2)	28.0(18.2)	20.3(11.2)	4.2(2.1)
第6回	2.6	8.6	23.1	36.5	25.7	3.5
第5回	7.2	9.5	22.4	36.4	19.4	4.9
第4回	14.8	9.3	24.1	33.5	13.4	4.9
第3回	10.9	10.6	23.2	34.1	12.0	9.2

(5) 要介護認定

今回の調査で、オストメイトの介護認定の状況を把握する質問項目を初めて設けた。表7～9に主な結果を示す。

なお、表7の全体の（ ）は、非会員のデータを示すが、認定を受けている割合が高くなっている（会員は12.0%）。

表7 要介護認定の有無（ストーマの種類別）

【単位：%】

ストーマの種類別	認定を受けている	受けていない	無回答
全体	15.0(21.7)	79.4(73.4)	5.6(4.9)
コロストミー	14.2	81.3	4.5
イレオオストミー	22.2	75.6	2.2
ウロストミー	11.6	83.9	4.5
Wストーマ	22.2	72.2	5.6

表8 要介護認定の有無（年齢別） 【単位：％】

年 齢 別	認定を受けている	受けていない	無回答
50歳未満	0.0	100.0	0.0
50歳～59歳	6.0	92.0	2.0
60歳～69歳	7.7	87.3	4.9
70歳～79歳	14.8	80.3	4.8
80歳以上	31.7	63.3	5.0

表9 要介護認定を受けている人の要介護度（無回答を除く） 【単位：％】

要介護度		要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全 体		25.9	18.5	9.9	14.8	22.2	8.6
ス ト ー マ 種 別	コ ロ ス ト ミ ー	25.0	16.7	8.3	14.6	22.9	12.5
	イ レ オ ス ト ミ ー	10.0	10.0	10.0	20.0	40.0	10.0
	ウ ロ ス ト ミ ー	58.3	41.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	W ス ト ー マ	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
非 会 員		24.1	24.1	3.4	17.2	17.2	13.8

ストーマの種類別に見ると、要介護認定を受けているオストメイトの割合は、イレオストミーとWストーマで最も高く、次いでコロストミーとウロストミーの順になっている。当然のことながら、年齢が高くなるにつれて割合は急増する。

要介護度は、イレオストミーとWストーマでは中度から高度に偏しており、ウロストミーでは低いほうに集中し、コロストミーでは介護度3以上と2未満で2分されており、ウロストミーより高い方にも認定されている。非会員もコロストミーと同じ傾向を示している。

なお、総人口との比較を、Ⅲ考察の2で示しているのので、参照されたい。

2. 身体障害者認定及びストーマ装具給付

(1) 身体障害者手帳給付状況

表10は、身体障害者手帳の交付を受けているオストメイトの割合の推移を示している。平成15年に身体障害認定基準が改正されたこともあり、3年前には98%以上の人が手帳の交付を受けていたが、今回は平成16年並に戻っている。今回の（ ）に非会員のデータを示したが、会員では「もらっている」割合が98.4%であるから、非会員の被給付率が影響している。

表10 身体障害者手帳給付状況の推移 【単位：％】

調 査 時 期	もらっている	もらっていない	無 回 答
今 回	97.2(96.5)	1.9(3.5)	0.9(0.0)
第 6 回	98.2	1.5	0.3
第 5 回	97.2	2.3	0.5
第 4 回	95.5	4.1	0.4
第 3 回	94.1	5.3	0.5

表 11 に示すように、今回の調査では全体として上位等級の 1 級と 2 級に顕著な増加が見られることが注目される。特に W ストーマにおいて 3 級以上の増加が著しい。これらは身体障害認定基準改正も影響しているようだが、今回は非会員に占める 1 級の割合の高さが主な要因ではないか。

なお、イレオストミーとウロストミーでは、3 級が減り 4 級がわずかに増えている。

表 1 1 ストーマ種類別の身体障害者手帳等級分布
(無回答を除く。括弧は前回)

【単位：％】

ストーマの種類別	1 級	2 級	3 級	4 級
全 体	4.1 (1.9)	2.8 (1.2)	6.1 (7.0)	87.1 (89.9)
コ ロ ス ト ミ ー	3.2 (1.3)	2.6 (0.7)	4.1 (4.9)	90.0 (93.1)
イ レ オ ス ト ミ ー	8.9 (5.1)	6.7 (5.1)	4.4 (12.8)	80.0 (76.9)
ウ ロ ス ト ミ ー	2.8 (0.9)	1.8 (2.6)	2.8 (4.4)	92.7 (92.1)
W ス ト ー マ	16.7 (10.0)	5.6 (0.0)	72.2 (65.0)	5.6 (25.0)
非 会 員	9.5	2.9	5.8	81.8

(2) ストーマ装具給付券の給付状況

表 1 2 に示すように、給付券を「もらっている」人の比率が今回は前回より 7.9% と大きく伸びていて、調査回数を追うごとに増加している。これは、支部や病院での情報提供や指導が次第に徹底してきた成果と言える。なお、今回の () は非会員のデータだが、「もらっている」会員の割合 92.3% とわずかに差がある。

表 1 2 ストーマ装具給付券の給付状況

【単位：％】

調 査 時 期	もらっている	もらっていない	無 回 答
今 回 (平成 22 年)	91.2 (89.9)	7.9 (8.7)	0.9 (1.4)
第 6 回 (平成 19 年)	83.3	13.7	2.9
第 5 回 (平成 16 年)	78.9	18.3	2.8
第 4 回 (平成 14 年)	80.6	17.7	1.7
第 3 回 (平成 11 年)	72.7	25.9	1.4

表 1 3 にストーマの種類別の給付券給付状況を示す。

全体の 9 割以上の人々が給付券をもらっており、特に W ストーマやウロストミーが高率である。(括弧は前回。無回答を除く)

表 1 3 給付券給付状況とストーマ属性 【単位：％】

ストーマの種類別	もらっている	もらっていない
全 体	92.0 (85.9)	8.0 (14.1)
コ ロ ス ト ミ ー	92.0 (83.6)	8.0 (16.4)
イ レ オ ス ト ミ ー	88.6 (86.8)	11.4 (13.2)
ウ ロ ス ト ミ ー	93.7 (92.7)	6.3 (7.3)
W ス ト ー マ	100.0 (85.0)	0 (15.0)

(3) ストーマ装具給付額

今回の調査結果の特徴は、前回調査で大幅に減少していた「所得が低いので全額給付」の人の割合が少し回復したこと、「所得制限で一部しかもらえない」人が大幅に増加したことである。反対に「所得制限で一部しかもらえない」人が減少し、「所得制限にかかるが、自治体の補助で全額もらえる」人の減少傾向が続き、「所得制限にかかるが、自治体の補助で一部もらえる」人は前回の大幅増から減少に転じた。これは、平成18年施行の障害者自立支援法の影響で、自治体の福祉が後退しているのではないかと危惧される一方、「低所得者への全額給付」の増加は、昨年度当初から、自治体によっては住民税非課税世帯などの自己負担を軽減する措置を取っていることによるのではないかと思われる。(表14)

なお、今回の蘭の()に非会員のデータを示したが、「所得制限にかかるが、自治体の補助で一部もらえる」者の比率が低く、「よくわからない・無回答」が多いが目立つ。

ストーマの種類別でみると、表15のようになりストーマの種類に関係なく「所得制限にかかるが、自治体の補助で一部もらえる」人が多くなっている。

表14 ストーマ装具給付状況の推移

【単位：%】

	今回	第6回	第5回	第4回
所得が低いので全額給付	19.6 (17.5)	13.7	30.3	30.0
所得制限で全くもらえない	4.0 (2.1)	0.6	0.2	1.7
所得制限で一部しかもらえない	14.2 (18.9)	19.3	17.4	17.9
所得制限にかかるが、自治体の補助で全額もらえる	6.5 (5.6)	7.4	13.6	15.9
所得制限にかかるが、自治体の補助で一部もらえる	42.5 (35.7)	52.0	26.1	31.2
よくわからない・無回答	13.3 (20.3)	7.0	12.5	3.2

表15 ストーマ装具給付額とストーマ種別 (無回答を除く。括弧は前回)

【単位：%】

	所得が低いので全額給付	所得制限で全くもらえない	所得制限で一部しかもらえない	所得制限にかかるが、自治体の補助で全額もらえる	所得制限にかかるが、自治体の補助で一部もらえる	よくわからない
全体	20.9(14.0)	4.3(0.6)	15.1(19.6)	6.9(7.6)	45.3(53.1)	7.6(5.1)
コロストミー	22.8(13.2)	4.5(0.3)	15.9(20.3)	6.0(7.1)	43.7(55.0)	7.2(4.1)
イレオストミー	23.3(21.2)	4.7(6.1)	14.0(21.2)	9.3(6.1)	37.2(42.4)	11.6(3.0)
ウロストミー	16.2(13.0)	2.7(0.0)	14.4(17.0)	7.2(11.0)	54.1(51.0)	5.4(8.0)
Wストーマ	11.1(23.5)	0.0(0.0)	27.8(11.8)	11.1(5.9)	44.4(52.9)	5.6(5.9)

(4) 一ヶ月にかかるストーマ装具の経費 (自治体給付額+自己負担額)

表16は、ストーマ装具の供給に、一ヶ月にどのくらいの経費がかかっているかを見たものである。経費が「かかる」と答えた人は、調査の都度増えていたが、今回も前回に比べて更に2.8%増加している。「全くかからない」と答えた人は、前回の半数程度の3.3%となっている。

金額は、全体では1万円未満で減少する一方、「10～15千円未満」のところで増加し、2万円以上の高額帯でも増えている。

ストーマの種類別で見ても、概ね全体と同じような傾向である。但し、イレオストミー、ウロストミー及びWストーマの場合「5～10千円未満」でも増えている。

表16 一ヶ月当たりのストーマ装具費用（無回答を除く。括弧は前回） 【単位：％】

補装具費用（月）	全体	コロストミー	イレオストミー	ウロストミー	Wストーマ
全くかからない	3.3(6.1)	4.7(6.1)	0.0(8.3)	1.0(6.2)	0.0(5.5)
かかる	96.7(93.9)	95.3(93.9)	100.0(91.7)	99.0(93.8)	100.0(94.5)
5千円未満	12.4(15.6)	15.1(15.6)	4.8(13.9)	8.0(16.5)	6.7(16.7)
5～10千円未満	34.9(35.0)	40.8(41.1)	35.7(27.8)	21.0(13.4)	13.3(11.1)
10～15千円未満	29.9(24.4)	26.4(22.4)	31.0(27.8)	48.0(39.2)	0.0(0.0)
15～20千円未満	8.3(11.1)	5.4(9.2)	11.9(16.6)	10.0(15.4)	20.0(11.1)
20～25千円未満	7.3(4.9)	6.0(3.2)	14.3(2.8)	7.0(6.2)	26.7(44.5)
25千円以上	3.9(2.9)	1.7(2.4)	2.4(2.8)	5.0(3.1)	33.3(11.1)

(5) 自己負担額

ストーマ装具の費用がかかるとした人に対し、自治体から給付される金額（人工肛門一ヶ月8,600円、人工膀胱一ヶ月11,300円、またはそれぞれこれに3％上乗せした額を給付基準額としている市区町村がほとんど。この報告書第2部参照。）で足りているか否かを聞いた。その結果「給付券だけでは間に合わない」とする人が72.7％（前回74.5％）と7割以上になっている。

表17 自己負担額（無回答を除く。括弧は前回） 【単位：％】

ストーマ装具給付券不足額（月）	全体	コロストミー	イレオストミー	ウロストミー	Wストーマ
間に合っている	27.3(25.5)	28.5(26.5)	17.9(19.3)	24.7(24.7)	41.2(37.5)
間に合っていない	72.7(74.5)	71.5(73.5)	82.1(80.7)	75.3(75.3)	58.8(62.5)
2千円未満	19.9(19.4)	22.7(20.9)	17.9(16.1)	18.0(18.0)	11.8(6.2)
2～3千円未満	14.4(16.3)	13.3(16.2)	15.4(9.7)	18.0(15.7)	5.9(18.8)
3～4千円未満	8.6(8.4)	8.6(7.3)	15.4(22.6)	7.9(6.7)	0.0(18.8)
4～6千円未満	9.3(11.8)	9.4(11.5)	0.0(16.1)	12.4(12.4)	11.8(6.2)
6～8千円未満	5.3(7.1)	5.1(6.5)	5.1(12.9)	6.7(5.9)	0.0(0.0)
8～10千円未満	5.3(3.3)	4.3(3.8)	10.3(0.0)	5.6(0.0)	0.0(6.2)
10～15千円未満	5.7(5.5)	5.5(4.7)	10.3(0.0)	4.5(12.3)	0.0(0.0)
15千円以上	4.3(2.7)	2.7(2.6)	7.7(3.3)	2.2(2.2)	29.4(6.3)
平均不足費用月額（円）	3,238(3,377)	3,104(3,241)	3,998(3,387)	2,557(3,860)	10,616(3,125)

ストーマの種類別に見ると、コロストミーとWストーマでは「間に合っていない」人が前回より少なくなっているのに対して、イレオストミーでは前回より少し増え、82.1％と最も多くなっている。

不足費用月額の平均値は、全体では3,238円であり前回より僅かに減少し、イレオストミーとWストーマで増加し、コロストミーでは僅かに、ウロストミーではかなり

減少している。特にイレオストミーの増加額とウロストミーの減少額が著しい。Wストーマの3倍以上の増えかたは「15千円以上」の負担をしている者の多さが影響していると思われる。(表17)

(6) バッグ以外のストーマ用品の給付状況

表18は、バッグやフレンジ以外のストーマ関連用品の給付も受けることができることを、知っているかどうかを聞いた質問の結果である。協会の以前からの要望に応じて、障害者自立支援法の施行に伴い厚生労働省が、給付できるストーマ関連用品の品目を明確にした平成18年の制度改善を受けて、今回は、この給付を受けているかどうかだけを尋ねたが、今回はそもそもこの制度を知っているかどうかを先ず確認し、その後「知っている」者に対して給付を受けているかどうかを質問した結果が表19である。

これらの結果によれば、Wストーマを除き、いまだ半数以上の者がこの制度を知らないということが解る。表18の「全体」の()は非会員のデータであり、「知っている」割合は会員より低い。ストーマの種別で見ると、イレオストミーとWストーマで他の種別より高率となっている。

表19のとおり、知っている者の多くが給付を受けているが、ここでもイレオストミーとWストーマで高い割合になっている。なお、この質問では無回答が多いことが特徴的である。

表18 13品目の給付を知っていたか 【単位：%】

		知 つ て い る	か 知 つ た ら な い	無 回 答
ス ト ー マ の 種 別	全体	29.4(22.4)	57.9(65.7)	12.8(11.9)
	コロストミー	29.9	58.1	12.0
	イレオストミー	35.6	55.6	8.9
	ウロストミー	25.9	62.5	11.6
	Wストーマ	44.4	44.4	11.1

表19 「知っている」者の受給状況 【単位：%】

		給 付 を 受 け て い る	給 付 を 受 け て い な い	無 回 答
ス ト ー マ の 種 別	全体	62.5	11.3	26.2
	コロストミー	58.9	11.2	29.9
	イレオストミー	81.3	6.3	12.5
	ウロストミー	62.1	13.8	24.1
	Wストーマ	75.0	12.5	12.5

3. 社会の理解度及びET/WOCナースの受診

(1) オストミー情報の入手先

ストーマ装具などオストミー情報の入手先は、全体では販売店からの情報が最多で、次に医療従事者、オストメイトの順となっている。前回と比べると販売店からの案内によるものが顕著に増え、オストメイトから入手の割合が大きく減っている。

ストーマ種別で見ても同じ傾向である。男女別では、女性はオストメイトを頼る傾向が少し強いようである。(表20)

会員と非会員の比較では、当然のことだが「オストメイト」のところに大きな差がある。

表20 オストミー情報の入手先 (複数回答可。括弧は前回調査) 【単位：%】

		販売店からの案内	メーカーのホームページ	医療従事者	オストメイト
全 体		49.5(36.4)	7.2(5.2)	25.5(27.5)	20.5(31.0)
スト ー マ 種 別	コロストミー	52.0(39.3)	6.4(5.5)	22.9(23.5)	22.6(31.8)
	イレオストミー	51.1(23.9)	8.9(8.7)	31.1(39.1)	20.0(28.3)
	ウロストミー	36.6(28.6)	5.4(3.0)	29.5(39.8)	19.6(28.6)
	Wストーマ	72.2(44.0)	22.2(4.0)	38.9(24.0)	16.7(28.0)
性 別	男 性	53.4(40.0)	8.0(5.7)	25.9(26.9)	16.8(27.5)
	女 性	43.7(31.1)	5.8(4.4)	24.8(28.0)	27.2(36.5)
会 員		50.8	7.9	21.7	28.0
非 会 員		54.5	5.6	32.2	3.5

(2) ストーマに関する社会の理解度

ストーマに関する社会の理解度については、全体でもまたストーマ種別や男女別で見ても、総じて理解されていないと感じているオストメイトが圧倒的に多い。前回と比べるとその割合は増加し、理解されていると思っている者の割合は大きく減っている(表21)。なお、この質問に対しては会員と非会員の回答に大差は無い。

表21 ストーマに関する社会の理解度 (括弧は前回) 【単位：%】

		理解されている	余り理解されていない	全く理解されていない	無回答
全 体		7.9(16.4)	65.6(58.2)	17.1(17.5)	9.4(7.9)
スト ー マ 種 別	コロストミー	8.4(15.7)	66.2(60.1)	16.8(17.4)	8.7(6.9)
	イレオストミー	6.7(20.5)	62.2(48.7)	17.8(25.6)	13.3(5.1)
	ウロストミー	6.3(21.1)	71.4(53.5)	15.2(15.8)	7.1(9.6)
	Wストーマ	5.6(5.0)	55.6(65.0)	16.7(15.0)	22.2(15.0)
性 別	男 性	6.0(18.2)	69.0(56.1)	16.2(17.7)	8.8(8.1)
	女 性	10.2(13.5)	61.7(61.9)	18.9(17.5)	9.2(7.1)

次の3つの質問は、従前の調査では無かった項目で、表21で得られる情報を補充

するためのものである。表22の質問は「今までにオストメイトのことが正しく理解されていないために困ったことはありましたか。」というもので、結果は全体としても、またストーマ種別や性別に拘らず、おおよそ30%前後の者が「あった」と答えた。なお、()は非会員のデータであるが、全体で「あった」とする者がすこし少なく、イレオストミーやウロストミーと同じような割合になっている。

表22 オストメイトのことが理解されていないため困ったことがあったか【単位：%】

		あった	なかった	無回答
全 体		32.5(26.6)	56.6(60.1)	10.8(13.3)
スト ー マ 種 別	コロストミー	36.0	54.2	9.8
	イレオストミー	26.7	64.4	8.9
	ウロストミー	26.8	61.6	11.6
	Wストーマ	38.9	38.9	22.2
性 別	男 性	33.2	58.0	8.8
	女 性	32.5	54.9	12.6

前問で、「(困ったことが) あった」と答えた方に、「それはどのような場面で経験しましたか。」と尋ねた結果が次の表23である。外出先で経験したとの答えが圧倒的に多い。その他の場面も含めて、もっと具体的に聞く必要があると思われる。「オストメイトのことが理解されていないため困ったことがあった場面」を聞いているのだが、外出先での経験の中には、もしかしたら自分の用意や経験不足で、緊急事態の対処に困ったという経験を思い出した方も多かったのではないかと想像する。

なお、()は非会員のデータであるが、職場と病院や施設で会員より目立って高い率になっている。

表23 前表で困ったことがあった場面（複数回答可）【単位：%】

		家族 関係 の中 で	職 場 で	外 出 先 で	病 院 や 施 設 で	そ の 他
ス ト ー マ の 種 別	全 体	13.4 (13.2)	17.7 (21.1)	63.4 (57.9)	16.7 (34.2)	12.4 (5.3)
	コロストミー	15.5	19.4	62.8	13.2	11.6
	イレオストミー	16.7	16.7	50.0	41.7	16.7
	ウロストミー	6.7	13.3	73.3	16.7	13.3
	Wストーマ	0.0	28.6	71.4	28.6	14.3

次の表24は、上記の2つの質問とは違うが、自分がストーマを着けて生活していることを知られてもよいと思う人の範囲を答えてもらった結果である。ストーマ種別で見ると、患者仲間や家族を含め、親しい友人・知人までなら知られてもよいという意識の人

が6割前後（但し、Wストーマは別）に達しているが、職場の同僚などには知られたくないと思っているとの結果である。家族の中だけに止めておきたいという人の割合（2割～3割近く）も顕著である。

（ ）は非会員の場合であるが、「家族だけにしておきたい」と思う者が、会員の19.8%に比して格段に多くなっている。

表24 自分がオストメイトであることを知られてもよい範囲（無回答を除く）【単位：%】

		自分だけにしておきたい	家族だけにしておきたい	オストメイトの間だけ	友人・知人はかまわない	職場の仲間もOK	誰に知られてもかまわない
ストーマの種類別	全体	1.2 (0.7)	27.1 (43.4)	8.2 (2.8)	53.3 (42.7)	2.8 (3.5)	1.4 (0.7)
	コロストミー	1.1	26.5	10.1	63.1	2.8	1.4
	イレオストミー	0.0	28.9	4.4	57.8	2.2	2.2
	ウロストミー	1.8	22.3	5.4	59.8	3.6	0.9
	Wストーマ	0.0	22.2	11.1	33.3	0.0	5.6

(3) ET/WOCナースの受診

ET/WOCナースのケアやアドバイスを受けたことがあると回答された者は、前回と比較すると大幅に増えている。この3年の間にも専門看護師の数が大きく増え、多くの病院に配置されるようになったことも背景にあると思われる。但し、Wストーマの受診経験者の減少と無回答の多さが目立っている。（表25）

なお、この質問では、会員と非会員の回答は全く同じであった。

表25 ET/WOCナースのケア経験（括弧は前回調査）【単位：%】

		経験がある	経験がない	無回答
全体		57.5(43.6)	35.0(46.5)	7.5(9.9)
ストーマ種類別	コロストミー	57.0(41.0)	36.9(51.5)	6.1(7.5)
	イレオストミー	68.9(51.3)	24.4(38.5)	6.7(10.3)
	ウロストミー	60.7(52.6)	33.0(31.6)	6.3(15.8)
	Wストーマ	50.0(60.0)	27.8(20.0)	22.2(20.0)
性別	男性	56.3(41.9)	36.4(48.2)	7.4(9.8)
	女性	62.5(47.6)	32.0(42.5)	5.3(9.9)

表26は、今回初めての質問で、前表の受診経験者に受診の効果を聞いたものである。およそ半数から6割弱の者は問題が解決できたと答えた。解決できなかったと答えた方は平均で7%程度であるが、Wストーマの11%が少し目立つ。この質問では、「一部解決できた（「解決できなかったこともあった」とも言える）」との回答が3割から4割近

くあることの意味を問う必要があるかも知れない。

なお、()内は非会員の場合であるが、「解決できた」が少し多く、「解決できなかった」がごく僅かである。

表 2 6 E T/WOCナースのケアで問題が解決できたか(無回答を除く) 【単位：%】

		解決できた	一部解決できた	解決できなかった
全 体		52.6(57.6)	36.8(37.6)	7.3(2.4)
ス ト ー マ 種 別	コロストミー	50.0	38.7	8.8
	イレオストミー	54.8	38.7	3.2
	ウロストミー	58.8	33.8	2.9
	Wストーマ	55.6	33.3	11.1
性 別	男 性	51.0	39.9	7.1
	女 性	55.0	31.8	7.8

4. ストーマ器具関連事項

(1) 二品型（ツーピース）と単品型（ワンピース）

バッグの種類として、二品型（ツーピース）と単品型（ワンピース）のどちらを使用する人が多いか、また、密閉型（クローズド）と開放型（ドレイン）のいずれが好まれているか、その傾向を表 2 7、表 2 8に示した。

第 3 回調査以降、二品型の方が単品型に比べて多く使用されていたが、単品型の使用割合も徐々に多くなってきていた。今回はその傾向に逆行する数字となった。

表 2 7 使用しているバッグのタイプ（無回答を除く）

【単位：%】

バッグの タイプ	今 回					第 6 回	第 5 回
	全 体	コロストミー	イレオストミー	ウロストミー	Wストーマ	全 体	全 体
二品型	57.5	48.0	37.8	50.9	50.0	55.9	56.8
単品型	42.5	52.0	62.2	49.1	50.0	44.1	43.2

(2) 密閉型（クローズド）と開放型（ドレイン）

今回調査では、密閉型に比べて下部開放型バッグの使用割合は、全体平均では従来の増加傾向を引き継いでいる。これは多数を占めるコロストミーの影響で、イレオストミーでは漸減傾向、Wストーマは大きく上下している。

表 2 8 バッグの密閉型と開放型のストーマ種別

(ウロストーマバッグと無回答を除く)

【単位：％】

バッグの型 ストーマの種別	開 放 型 (ドレイン)			密 閉 型 (クローズ)		
	今回	第 6 回	第 5 回	今回	第 5 回	第 6 回
全 体	79.5	74.6	67.2	20.5	25.4	32.8
コロストミー	78.9	72.2	65.1	21.1	27.8	34.9
イレオストミー	85.8	86.8	87.5	14.2	13.2	12.5
W ス ト ー マ	73.3	94.1	77.8	26.7	5.9	22.2

(3) 使用中のストーマ装具の満足度

現在使用しているストーマ装具に満足している人の全体平均割合は、満足とほぼ満足を加えると全体の 75.6%となり、前回に比べ 3.5%減となっている。第 3 回調査から 5 回までの満足度は、73.2%、79.3%、82.1%と、毎回向上していたが、前回第 6 回に 3%減少し今回も減少傾向が続いた。

イレオストミーでは満足が大幅に増え、不満足が減少している。ウロストミーでは満足・ほぼ満足とも減少し、やや不満・不満足の増が比較的大きい。(表 2 9)

また、非会員では満足度が会員より若干低くなっている。

表 2 9 使用中のストーマ装具の満足度

【単位：％】

	満足	ほぼ満足	やや不満	不満足
全 体	22.8(21.4)	52.8(57.7)	19.4(16.6)	4.9(4.3)
コロストミー	22.6(21.7)	53.5(57.1)	18.7(17.0)	5.1(4.2)
イレオストミー	25.6(15.4)	48.7(51.3)	20.6(20.5)	5.1(12.8)
ウロストミー	21.9(24.8)	59.1(62.4)	13.3(10.1)	5.8(2.8)
W ス ト ー マ	25.0(11.1)	50.0(66.7)	25.0(22.2)	0.0(0.0)
非 会 員	17.5	54.0	23.0	5.5

(4) ストーマ装具を選んだ理由

現在使用しているストーマ装具を選択した理由を聞いたところ、全体では前回同様、入院中から使用している、皮膚に安心、扱いやすいが上位 3 位を占めている。次いで、医師または看護師の推薦を挙げる者が多く、今回これが大きく増えている。前回 4 位だった「サンプルを使ってみて良かったから」の項目が 5 位に落ちた。

ストーマの種別との関連では、コロストミー以外では上記の順位に変動がある。(表 3 0)

表30 使用しているストーマ装具を選択した理由とストーマ種別（括弧は前回）【単位：％】

	全 体	コロ ストミー	イレオ ストミー	ウロ ストミー	Wストーマ
値段が安い	7.5(8.5)	9.8(9.7)	11.1(7.7)	0.0(2.6)	0.0(10.0)
入院中から使用している	43.3(41.5)	43.3(39.7)	44.4(51.3)	44.6(49.1)	33.3(30.0)
皮膚に安心	32.5(35.6)	33.8(36.5)	33.3(38.5)	29.5(28.9)	27.8(40.0)
粘着力が強い	12.8(14.3)	14.0(14.8)	6.7(15.4)	14.3(12.3)	11.1(20.0)
使用中の漏れがない	16.1(16.4)	14.2(17.0)	24.4(23.1)	18.8(14.0)	22.2(5.0)
扱いやすい	31.5(29.6)	33.5(32.2)	37.8(28.2)	25.0(18.4)	55.6(40.0)
メーカー・業者のサービスが良い	7.5(6.8)	7.8(6.7)	4.4(7.7)	9.8(6.1)	0.0(25.0)
病院の医師又は看護師の推奨	24.3(17.6)	20.9(15.7)	31.1(20.5)	30.4(22.8)	33.3(20.0)
患者会・同憂者会の仲間の推奨	2.3(4.6)	2.8(4.9)	0.0(5.1)	1.8(2.6)	0.0(0.0)
知合いのオストメイトの推奨	2.8(5.3)	3.1(6.7)	2.2(2.6)	2.7(1.8)	0.0(0.0)
販売店からの薦め	4.0(5.3)	4.7(5.4)	6.7(5.1)	2.7(7.0)	0.0(0.0)
メーカーの営業マンの推奨	3.8(4.4)	3.9(4.3)	4.4(10.3)	4.5(4.4)	0.0(5.0)
サンプルの試用で良好	18.9(22.0)	19.3(22.5)	17.8(25.6)	17.9(15.8)	27.8(35.0)
会報の広告・情報誌の記事	3.0(3.5)	3.6(4.3)	4.4(0.0)	0.0(0.9)	0.0(10.0)
ホームページの記事	0.0(0.2)	0.0(0.2)	0.0(0.0)	0.0(0.0)	0.0(0.0)
わからない	0.5(1.1)	0.3(1.3)	0.0(2.6)	0.9(0.0)	0.0(0.0)
その他	4.5(4.7)	5.0(4.7)	2.2(7.7)	6.3(3.5)	0.0(5.0)

(5) バッグ（袋）の交換頻度

どのくらいの頻度でバッグの交換をするか、継続的な調査を行った結果、「1日に2回以上」及び「1日に1回」が減少傾向を続けており、「2日に1回」もここ2回はわずかな減少を見せている。そして「3日に1回」以降「6日に1回」までの者が増加傾向にある。（表31）

表31 バッグ（袋）の交換頻度の推移 【単位：％】

交換頻度	1日 2回 以上	1日 1回	2日 1回	3日 1回	4日 1回	5日 1回	6日 1回	1週間 1回	それ 以上	使用 しない	無回 答
今 回	4.4	13.5	17.3	25.2	15.2	8.6	2.6	3.1	1.4	1.0	7.7
第6回	8.2	17.2	17.9	21.6	12.8	5.8	2.4	3.6	0.9	1.7	7.9
第5回	9.5	19.4	18.2	16.3	10.4	7.6	1.6	4.1	3.2	2.3	7.4
第4回	8.1	21.1	16.3	17.0	12.5	7.9	4.0	3.8	2.0	2.3	4.9
第3回	12.3	22.2	13.7	14.0	9.4	5.7	2.0	3.6	1.9	2.5	11.8

性別では、前回は男性は「3日に1回」が最多で、女性は「2日に1回」が最多であったが、今回は男性・女性ともに「3日に1回」が最も多い。但し、2日以下の短い間隔で交換する傾向は女性に強く、男性の交換頻度は女性より少ない。

ストーマの種別で最も頻度の高いところを前回と比較すると、コロストミーでは前回の「1または2日に1回」から「3日に1回」に移り、短い間隔での交換が減っている。イレオストミーは「3日に1回」が最多であることに変わりはないが、それより短い日数で交換する人の割合が大幅に減っている。ウロストミーでは「4日に1回」が前は最多だったが、今回は「3日に1回」と同率で最多になり、2日以下の短い間隔で交換する人の割合が増えた。Wストーマは前回「3日に1回」が最多だったが、今回は「2日に1回」と短縮化している。

(表32)

表32 バッグ(袋)の交換頻度(性別、ストーマ種別)(無回答を除く) 【単位：%】

交換頻度		1日2回以上	1日1回	2日1回	3日1回	4日1回	5日1回	6日1回	1週間1回	それ以上	使用しない
全体		4.7 (8.9)	14.6 (18.6)	18.8 (19.5)	27.3 (23.4)	16.5 (13.9)	9.3 (6.3)	2.8 (2.6)	3.4 (4.0)	1.5 (1.0)	1.1 (1.8)
性別	男性	4.9 (8.5)	10.7 (16.3)	17.7 (15.7)	27.2 (24.0)	18.3 (16.8)	10.1 (6.6)	3.1 (3.6)	4.9 (5.5)	2.1 (1.1)	0.9 (1.9)
	女性	4.7 (9.7)	21.1 (22.5)	20.5 (25.0)	26.8 (23.3)	13.2 (9.3)	7.9 (4.7)	2.6 (1.3)	1.1 (1.7)	0.5 (0.8)	1.6 (1.7)
ストーマ種別	コロストミー	5.7 (10.4)	19.9 (23.0)	21.8 (23.0)	26.9 (23.0)	12.7 (9.3)	6.0 (3.7)	1.5 (2.3)	2.7 (3.0)	1.2 (1.2)	1.5 (2.1)
	イレオストミー	2.3 (10.3)	11.6 (12.8)	14.0 (20.5)	30.2 (33.3)	18.6 (15.4)	14.0 (2.6)	0.0 (2.6)	7.0 (0.0)	0.0 (2.6)	2.3 (0.0)
	ウロストミー	0.9 (0.0)	0.9 (1.9)	5.7 (3.8)	28.3 (27.9)	28.3 (33.7)	18.9 (16.3)	7.5 (4.8)	5.7 (9.6)	3.8 (0.0)	0.0 (1.9)
	Wストーマ	5.9 (12.5)	11.8 (12.5)	29.4 (12.5)	23.5 (25.0)	17.6 (18.8)	5.9 (12.5)	5.9 (0.0)	0.0 (6.3)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)

(6) 二品型ストーマ装具のフランジ交換頻度

フランジ（皮膚に密着させる面板）を交換する平均頻度は、他季節（夏季を除く春、秋、冬季）では「3日～5日に1回」が多く、前回と大きな変化は無い。夏季は、前回同様一日短いほうへシフトしている傾向は変わらない。（表33）

表33 二品型フランジの交換頻度の推移

【単位：％】

		1日 2回 以上	1日 1回	2日 1回	3日 1回	4日 1回	5日 1回	6日 1回	1週間 1回	それ 以上	使用 しない	無回 答
今回	他季節	0.4	1.1	3.6	16.1	15.7	17.2	5.8	7.7	1.5	0.0	31.0
	夏季	0.7	2.9	13.1	28.5	19.7	10.6	3.6	4.7	0.7	0.0	15.3
第6回	他季節	0.8	0.6	4.8	15.7	19.9	15.1	4.5	6.4	1.7	0.3	30.3
	夏季	1.7	2.0	12.3	27.5	20.7	11.2	4.8	3.9	1.1	0.3	14.6
第5回	他季節	0.3	1.0	3.2	13.5	17.9	13.8	9.3	7.4	0.6	0.6	32.4
	夏季	0.6	1.9	10.6	25.0	18.9	14.1	6.4	7.1	0.6	1.0	13.8

ストーマの種別でみると、他季節でもっとも頻度割合の高いのは、コロストミーが「3日に1回」、イレオストミーが「4日に1回」、ウロストミーが「5日に1回」、Wストーマが「4日に1回」となっている。夏季の交換日数は他季節に比べ、それぞれ1日程度早くなっている。

平均交換日数の推定値は、コロストミーが他季節4.54日、夏季3.75日、イレオストミーが他季節3.82日、夏季3.32日、ウロストミーが他季節4.18日、夏季3.92日、Wストーマが他季節4.43日、夏季4.00日となり、各々夏季には0.79日、0.5日、0.26日、0.43日交換日数が短くなっている。（表34）

表34 二品型フランジの交換頻度とストーマ種別（無回答を除く。括弧は前回） 【単位：％】

交換頻度		1日2回以上	1日1回	2日1回	3日1回	4日1回	5日1回	6日1回	1週間1回	それ以上	使用しない
他 季 節	コロストミー	0.9 (0.6)	0.9 (1.2)	6.0 (7.3)	23.1 (18.9)	21.4 (26.8)	21.4 (22.6)	7.7 (6.1)	16.2 (12.2)	2.6 (3.7)	0.0 (0.6)
	イレオストミー	0.0 (4.0)	8.3 (0.0)	0.0 (8.0)	25.0 (36.0)	25.0 (36.0)	41.7 (16.0)	8.3 (4.0)	0.0 (0.0)	0.0 (4.0)	0.0 (0.0)
	ウロストミー	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	2.2 (4.1)	20.0 (26.5)	26.7 (32.7)	35.6 (24.5)	11.1 (8.2)	2.2 (4.1)	2.2 (0.0)	0.0 (0.0)
	Wストーマ	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	14.3 (0.0)	14.3 (28.6)	42.8 (42.9)	0.0 (0.0)	14.3 (14.3)	14.3 (14.3)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)
夏 季	コロストミー	0.7 (2.0)	2.7 (2.9)	16.3 (12.2)	35.4 (34.1)	21.1 (22.9)	12.2 (13.2)	4.1 (5.9)	6.8 (4.4)	0.7 (2.0)	0.0 (0.5)
	イレオストミー	0.0 (0.0)	6.3 (3.6)	12.5 (28.6)	31.3 (32.1)	31.3 (21.4)	18.7 (10.7)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (3.6)	0.0 (0.0)
	ウロストミー	2.0 (1.8)	2.0 (0.0)	10.0 (10.5)	32.0 (28.1)	26.0 (31.6)	16.0 (14.0)	6.0 (8.8)	4.0 (5.3)	2.0 (0.0)	0.0 (0.0)
	Wストーマ	0.0 (14.3)	0.0 (0.0)	37.5 (28.6)	12.5 (28.6)	25.0 (14.3)	0.0 (14.3)	12.5 (0.0)	12.5 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)

5. 洗腸関連事項

(1) 洗腸法実施者数の推移（人工肛門のみ）

洗腸を行っている人の割合を手術後経過年数区分ごとに見たものである。過去の調査と同様に経過年数順に多くなっているが、全体に洗腸実施者が益々減少している。（表35）

なお、回答者のうち8割弱（前回は7割弱）の者が洗腸を実施していない。

表35 術後経過年数別の洗腸実施者 【単位：％】

術後経過年数	今回	第6回	第5回
3年未満	10.3	11.1	23.3
3～5年	12.9	16.7	21.1
5～10年	10.1	21.9	24.4
10～20年	20.1	34.3	40.3
20年以上	28.3	40.3	26.7

また、年齢別に見ると前回第6回調査では、65歳～69歳の者が最も多かったが、今回も全体に減少しつつ同じ年代で最大になっている。前項の8割弱の洗腸を実施していない者のうち、60歳以上の方達の比率は、実に85%を占めている。（表36）

表36 年齢別洗腸実施者の割合【単位：％】

年齢（歳）	今回	第6回
40未満	14.3	0
40～49	14.3	23.1
50～59	13.9	36.0
60～64	25.6	32.7
65～69	32.1	38.9
70～74	11.3	28.3
75～79	21.2	28.4
80以上	22.2	32.2

(2) 洗腸の実施頻度

洗腸を行っている人は、女性より男性がやや多く、前回「2日に1回」の頻度で実施が最多だったが、今回は全体では頻度に差は無いが、男性は「1日に1回」、女性は「2日に1回」が突出している（表37）。

表37 洗腸実施頻度
（無回答を除く。括弧は前回）

【単位：％】

	全体	男性	女性
洗腸をしていない（自然排便）	72.4(68.4)	73.8(68.0)	70.5(68.7)
1日に1回洗腸を行っている	5.5(6.1)	8.1(6.5)	1.8(5.5)
2日に1回洗腸を行っている	5.5(11.7)	3.2(11.7)	9.0(12.0)
3日以上1回洗腸を行っている	3.6(7.2)	3.2(7.2)	4.2(6.9)
たまに洗腸をしている	4.3(6.6)	4.4(6.5)	3.6(6.9)

(3) 洗腸器具の買い替え頻度

洗腸器具の買い替え頻度は、今回は期間の短い方へ移っている（表38）。

表38 洗腸器具の買い替え頻度

【単位：%】

	今回	第6回	第5回	第4回
3ヶ月に1回	12.7	6.8	9.7	5.9
半年に1回	29.1	21.6	23.9	18.4
1年に1回	17.7	32.7	36.6	32.2
それ以上	27.8	32.7	25.4	38.4
無回答	12.7	6.2	4.5	5.1

6. 生活上抱えている問題や悩み

前回の調査と同じく、依然として「ストーマの管理が出来なくなった場合の不安」が一番に、次いで「高齢化で寝たきりや半身不随になること」が二番に多くなった。三番目が「災害時のストーマ装具の補給」の問題である。

ストーマ種別でみると、コロストミーでは上位3つの順位は上記と同じだが、イレオストミーでは「皮膚のただれ、かゆみなどの障害」が第2位に来て、「老化で寝たきりや半身不随になる」が3位である。ウロストミーでは「皮膚のただれ、かゆみなどの障害」が3位である。Wストーマでは前回と異なり「ストーマ管理が出来なくなった場合」と「病気の再発（転移を含む）」が同率で首位を示し、「老化で寝たきりや半身不随になる」と「災害時」がやはり同率で3位になっている。

これを会員、非会員の区別で見ると、会員の悩みトップ3は全体と同じだが、非会員では1位が「ストーマの管理が出来なくなった場合の不安」である一方、会員と異なり2位が「皮膚のただれ、かゆみなどの障害」、3位に「便（尿）もれ」が来ていることが注目される。

また、年齢区分ごとに上位3位を表示したので年齢による違いも見ていただきたい。（表39）

7. 国や自治体の福祉制度についての要望

国や自治体の福祉制度に対する要望について表40に示す11項目について聞いた。表40では、集計区分ごとに上位3位までを表示したが、全体では「人工膀胱や回腸人工肛門は3級にしてほしい」が前回の5位から1位に上昇し、「ストーマ装具給付制度の所得制限をなくしてほしい」と「所得税の障害者控除をもっと引き上げてほしい」がわずかの差で2位と3位につけ、前回の3位だった「JR運賃割引制度の距離制限をなくしてほしい」が4位に落ちた。

性別、ストーマ種別や年齢別の要望事項の違いや前回との差も見ていただきたい。

なお、会員と非会員の差を見ると、わずかな数値の違いで順位は異なるものの上位3位の事項は同じであるが、「JR運賃」「ヘルパーによる装具交換」及び「自動車税等の軽減」の3項目については、非会員が要望する割合が約10%から16%ほど会員より目立って低くなっている。

表39 生活上抱えている問題や悩み

(複数選択可。下段は前回。但し、会員・非会員の比較欄を除く。)

【単位:%】

		病気の再発 (転移を含む)	老化で寝たきりや半身不随になる	便(尿)のもれ	臭いもれ	皮膚のただれ、かゆみなどの障害	性機能の低下や不全	ストーマ管理がうまく出来なくなる	家庭内や職場での引け目、人間関係	災害時のストーマ装具の補給	相談できる人が身近にいない	ストーマ管理が出来なくなった場合	経済的不安
全体		35.8 37.9	59.4 67.8	41.1 48.2	36.0	47.0 37.2	9.4 16.3	8.6 7.8	11.2 17.0	50.7 56.1	8.0 11.7	67.7 79.3	19.9 17.6
会員 非会員		37.5 34.3	66.6 45.5	40.2 46.9	33.7 40.6	44.8 52.4	11.1 7.0	9.5 7.0	10.6 11.2	53.5 44.1	8.7 4.9	73.1 56.6	19.8 19.6
性別	男性	35.5 35.6	56.5 63.6	44.0 49.5	35.8	45.7 36.9	13.6 23.5	9.1 7.8	11.9 15.7	48.3 50.0	7.4 11.4	63.6 76.2	20.2 15.9
	女性	37.4 42.1	65.5 74.6	36.9 46.8	37.9	49.0 38.5	2.4 5.2	7.8 7.5	10.2 19.4	56.8 65.1	9.7 12.7	75.2 84.1	18.9 19.8
ストーマ 種別	コロストミー	37.4 39.5	62.0 67.8	40.5 50.2	41.6	45.3 35.6	9.2 16.1	7.5 6.2	12.0 19.1	53.4 58.2	9.5 12.9	70.1 79.8	20.4 20.5
	イレオストミー	37.8 35.9	53.3 56.4	51.1 56.4	33.3	62.2 56.4	8.9 12.8	13.3 15.4	6.7 20.5	51.1 56.4	6.7 10.3	64.4 82.1	26.7 27.3
	ウロストミー	33.9 33.3	58.0 70.2	40.2 36.8	18.8	50.9 38.6	10.7 21.1	8.9 8.8	8.9 7.0	45.5 46.5	3.6 8.8	67.9 76.3	14.3 13.2
	Wストーマ	44.4 30.0	38.9 75.0	22.2 60.0	33.3	27.8 35.0	11.1 15.0	5.6 15.0	5.6 20.0	38.9 55.0	5.6 5.0	44.4 75.0	22.2 25.0
年 齢 (歳)	40歳未満	44.4 0.0	22.2 33.3	77.8 33.3	66.7	66.7 100.0	0.0 33.3	0.0 33.3	0.0 33.3	0.0 66.7	11.1 0.0	55.6 66.7	33.3 0.0
	40~49	50.0 46.7	33.3 26.7	41.7 66.7	25.0	33.3 66.7	16.7 26.7	8.3 20.0	25.0 40.0	25.0 66.7	16.7 6.7	50.0 66.7	50.0 33.3
	50~59	42.0 49.1	50.0 49.1	44.0 56.1	44.0	60.0 40.4	12.0 28.1	12.0 3.5	10.0 14.0	54.0 73.7	12.0 10.5	74.0 80.7	32.0 28.1
	60~64	50.9 44.3	52.6 62.3	45.6 59.0	40.4	52.6 31.1	22.8 19.7	3.5 13.1	15.8 21.3	47.4 65.6	8.8 8.2	73.7 86.9	21.1 23.0
	65~69	37.6 40.0	56.5 67.8	34.1 45.6	36.5	42.4 35.6	14.1 21.1	7.1 3.3	9.4 20.0	51.8 57.8	8.2 10.0	65.9 82.2	23.5 20.0
	70~74	39.7 39.4	59.5 71.5	41.4 49.6	39.7	46.6 39.4	6.0 20.4	8.6 6.6	6.9 14.6	44.8 54.0	6.0 16.8	68.1 80.3	20.7 19.0
	75~79	32.7 38.8	68.1 71.2	31.9 42.4	28.3	46.9 36.7	8.0 10.8	8.0 10.1	11.5 17.3	64.6 47.5	8.8 7.2	68.1 76.3	10.6 12.2
	80以上	23.3 27.9	68.3 76.2	49.2 46.3	35.0	43.3 34.7	4.2 8.2	11.7 6.8	12.5 14.3	46.7 52.4	6.7 15.6	66.7 76.9	17.5 11.6

(注: 前回までは「便(尿)もれ」と「臭いもれ」を併せて1つの選択肢としていたが、今回はそれらを2つに分けて聞いた。従って「便(尿)もれ」欄の前回数値(下段)には「臭いもれ」も含む。)

表40 国や自治体の福祉制度についての要望
(下段は前回。但し会員・非会員別の欄を除く。)

【単位：％】

		ほしい	してほしい	ほしい	人工膀胱や回腸人工肛門は三級にしてほしい	い	い	国民年金の障害年金に厚生年金なみの三級を設けてほしい	ヘルパーがパウチ交換をしてほしい	回腸人工肛門の補装具交付金額を人工膀胱と同額にしてほしい	自動車税(軽自動車)、同取引税の軽減を四級障害者にも適用してほしい	公共の建物やデパートなどに、オストメイト対応トイレを設置してほしい
全 体		46.3 47.4	17.8 22.5	45.1 49.1	47.0 38.4	29.9 30.7	39.3 44.8	30.9 28.9	27.4 32.8	12.1 10.3	26.0 31.3	32.7 41.9
会 員		47.8	19.0	48.1	47.8	32.1	44.3	31.0	33.2	14.1	28.6	32.6
非 会 員		42.0	14.0	42.7	43.4	28.7	28.7	28.7	17.5	9.1	18.9	32.2
性別	男 性	50.3 47.5	17.6 21.5	52.0 56.1	48.9 42.7	27.0 30.1	40.3 45.2	32.1 29.0	23.0 29.3	13.9 9.3	32.4 39.9	36.4 44.4
	女 性	40.8 48.0	18.0 24.2	33.5 38.1	43.7 32.5	35.9 31.7	37.4 45.2	29.6 28.6	35.4 38.1	9.2 11.5	15.5 17.6	27.2 38.9
ストーマ種別	コロストミー	46.9 48.7	19.0 22.5	45.0 49.4	42.2 32.8	27.9 31.5	41.1 44.0	32.4 29.6	26.8 30.7	10.6 9.4	27.4 33.0	35.8 42.3
	イレオストミー	62.2 53.8	26.7 33.3	40.0 43.6	55.6 61.5	51.1 33.3	33.3 51.3	28.9 33.3	26.7 41.0	37.8 46.2	22.2 28.2	37.8 59.0
	ウロストミー	40.2 41.2	13.4 16.7	50.0 18.2	64.3 61.4	29.5 24.6	38.4 46.5	32.1 21.9	31.3 36.0	5.4 0.9	25.0 27.2	20.5 29.8
	W ストーマ	27.8 50.0	16.7 25.0	50.0 50.0	22.2 15.0	38.9 25.0	44.4 40.0	27.8 30.0	38.9 35.0	33.3 10.0	16.7 15.0	50.0 45.0
年 齢 (歳)	40 未満	77.8 0.0	22.2 0.0	55.6 0.0	33.3 0.0	44.4 33.3	22.2 33.3	0.0 0.0	22.2 33.3	11.1 0.0	22.2 0.0	33.3 0.0
	40 ～ 49	50.0 60.0	16.7 26.7	16.7 46.7	41.7 53.3	33.3 46.7	33.3 46.7	33.3 33.3	16.7 20.0	16.7 20.0	33.3 60.0	50.0 40.0
	50 ～ 59	60.0 52.6	18.0 33.3	46.0 52.6	52.0 29.8	28.0 24.6	42.0 54.4	36.0 38.6	24.0 42.1	12.0 10.5	36.0 40.4	22.0 43.9
	60 ～ 64	56.1 52.5	26.3 31.1	54.4 55.7	50.9 37.7	26.3 41.0	38.6 42.6	35.1 32.8	33.3 49.2	10.5 16.4	29.8 36.1	40.4 44.3
	65 ～ 69	45.9 52.2	28.2 18.9	55.3 48.9	44.7 43.3	32.9 30.0	38.8 50.0	29.4 28.9	28.2 32.2	14.1 11.1	27.1 28.9	31.8 38.9
	70 ～ 74	44.8 48.9	9.5 23.4	43.1 52.6	53.4 41.6	33.6 32.8	47.4 52.6	37.1 31.4	30.2 36.5	12.1 9.5	24.1 35.0	34.5 46.0
	75 ～ 79	42.5 43.2	15.0 23.0	41.6 50.4	44.2 41.7	29.2 28.8	43.4 40.3	28.3 24.5	28.3 28.8	11.5 9.4	25.7 29.5	31.9 36.0
	80 以上	40.8 42.9	17.5 15.0	41.7 41.5	44.2 33.3	27.5 26.5	30.8 36.7	28.3 24.5	25.0 23.8	11.7 6.8	21.7 23.1	32.5 43.5

Ⅲ. 考察

17年前に初めて行われたこの調査は、今回で7回目である。この間、福祉制度や施策の進展、ストーマ装具の改良、知識の啓発・普及などオストメイトを支える環境が整備され、オストメイトの生活もかなり改善されてきた。しかし、平成18年に施行された障害者自立支援法によって、我々オストメイトの生活の質（QOL）と尊厳を保障する最も重要なストーマ装具の給付制度が変更され今日に至っているが、この法律自体が見直され新たな立法が議論されているなど、政治状況の混乱もあって今後の展開は予断を許さない。全国オストメイト17万人の利害を代表する当協会としても、今後とも国や地方自治体の施策向上を勝ち取りオストメイトの更なる福祉改善を図るためにも、このような調査は重要である。間もなく平成23年度当初には当協会も新しい公益社団法人に移行することでもあり、ここで得られた結果を基に一層強力な活動を展開しなければならない。

なお、今回は本調査と並行して、全国の市区町村を対象に「日常生活用具」支給の実態、オストメイトの災害時避難支援策及びオストメイト対応トイレ整備状況を調査した結果（この報告書第2部）も併せて参考にさせていただきたい。市区町村の間では、依然としてストーマ装具給付の基準格差があり、また災害対策やオストメイトトイレの整備状況にも差が大きい。全国どこでも同じ福祉制度の恩恵を受けられるようにするには、まだまだ為すべきことは多い。

1. 調査方法

今回の調査で、初めて当協会の会員でないオストメイトをサンプルに加えた。残念ながら非会員からの回収率は、サンプル数は同じにしたにもかかわらず全回収数（572票）の25%に止まったが、少ない回答でも、非会員の実情を会員と比較して意味ある数値が得られたところもあった。次回以降の調査では、当協会の使命のためにも、全国の全てのオストメイトのみをサンプリングの母集団にすることを検討が必要だと思われる。

2. 身体障害者福祉法及び介護認定関連事項

(1) 障害認定について

長年にわたる当協会の活動の一端が実り、身体障害認定基準が平成15年4月1日に改正され、ストーマを付ければ無条件で身体障害認定を受けられる即時全員認定が実現した。また3級以上の身体障害認定基準はこれまでより明確にされ、上位級への認定の道が開かれた。

身体障害認定基準改正に伴う手帳の交付状況は、第6回調査（平成19年）において既に98.2%の交付率になっているが、今回の調査でも会員の交付率は僅かに上がり98.4%とほとんどの人が手帳の交付を受けていることがわかる。非会員の交付率が若干低い、非会員で手帳の交付を受けていないと答えた者の60%は交付申請中とのことであった。

今回の調査では、障害等級別分布に注目したい。前回と比べて上位等級の1級と2級が増えているとの結果だが、これは非会員に1級が顕著に多いことが影響している。非会員のなかに障害程度の重い仲間が多くいるとすれば、協会の活動をそのようなオストメイトにも広げてゆく必要性がこの面からも高いと言えよう。

(2) 要介護認定について

今回の調査で、要介護認定について初めて質問した結果にも注目したい。国民全体の要介護（要支援）認定に関する統計（「介護保険事業状況報告（暫定）」平成22年10月厚労省）及び「人口推計 平成23年2月報」総務省統計局により得られた平成22年9月1日現在（確定値）から得られる総人口に占める認定者と、今回の調査結果を比較すると、下記のようなになる。

◎総人口に占める要介護（要支援）認定者割合 3.9%

（内、65歳未満 0.4%、65～74歳 4.3%、75歳以上 29.6%）

◎オストメイトに占める認定者割合 15.0%

（内、65歳未満 4.7%、65～74歳 7.0%、75歳以上 24.5%）

このように、総人口と総オストメイトに占める認定者割合の間に大きな差があり、特に75歳未満の認定率の高さとオストメイトに占める75歳以上の構成比の高さが影響している。今回の調査では何が原因で認定を受けたかは聞かなかったが、次の表のように認定者を介護度別の比較で見ると、オストメイトは要介護度2でかなり低く、4ではかなり高くなっていることが解る。

要介護（要支援）認定者の介護度別割合 【単位：%】

要介護度	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
総人口	26.2	17.9	17.5	14.0	12.7	11.7
オストメイト	25.9	18.5	9.9	14.8	22.2	8.6

ストーマによって排泄管理をしなければならないこと自体を介護認定の要件のひとつにするという制度的課題はあるが、オストメイトで介護認定を受けている者のケアは、協会の日常的な活動の中でも益々留意しなければならないことになろう。

要介護者のケアに関しては、かねてから要望している介護士などによるストーマバッグやフランジの交換の問題や、訪問看護師のストーマケアに関する知識・技術の普及・向上の問題もある。上記のような状況を踏まえて、早急な対応をすることが必要である。

3. 障害者自立支援法関連事項

(1) ストーマ装具給付状況

過去の調査ごとに増えていた「給付券をもらっている」割合がついに9割を超え、「もらっていない」割合は1割以下に落ちた。障害者自立支援法の施行によりこの事業が市区町村のものとなり、その裁量により実施できることとなったことの影響とも思われる。また、所得区分を適用する場合に、以前の所得税区分から市区町村民税の区分が適用されることになったためでもあろう。

一方で、装具に経費（1か月当り給付額+自己負担額）がかかると答える者が、前回からさらに増えている。装具の交換頻度のデータでは、前回に比べ少し日数が長くなっているのだが、装具の最近の値上げ等も影響していると思われる。今日のようにデフレ経済で所得も低下している中、市区町村からの給付では不足だというオストメイトが前回と同じく7割を超えていることを問題にしなければならない。給付基準額の改善に向けて、補助金を出している国の交付基準見直しを強く要望しなければならない。

なお、治療の必要上一時的にストーマを付けた生活を余儀なくされている患者（今回調査で5%）の、ストーマ装具の費用負担問題が別途ある。その費用が健康保険でカバーされず、また身体障害者の認定を受けなければ市区町村に給付申請は出来ないので、早急な対策が必要である。

また、本報告書第2部で、高齢者入所施設に入居しているオストメイトに対する市区町村によるストーマ装具給付の有無を調べ、改善の必要性を指摘していることにも着目していただきたい。

(2) バッグやフランジ以外のストーマ用品給付状況

障害者自立支援法の施行と同時に協会が要望していた、いわゆるストーマバッグやフランジ以外の装具「13品目」の給付について、厚生労働省が通達を出しているにもかかわらず、半数以上のオストメイトは知らなかったと答えた。市区町村によっては、こ

れの給付を未だ行っていないところがまだ多いが（第2部参照）、そのようなところには協会の働きかけが必要であるし、実施しているところでも広報の徹底やオストメイトへの周知の努力が必要である。

4. 社会の理解度と自己認識

ストーマに関する社会の理解度について、オストメイトがどのように受け取っているか質問した結果では、「理解されている」と感じている者の割合は前回よりも大幅に減少し、「余り理解されていない」と答えた者がかなり増えているが、この両者を合計した数値は、前回と同じである。

これに関連して、「理解されていないため困ったことがあったか」と「どういう場で困ったか」と聞いた質問には、3割前後の者が困ったことがあったと答えた。そしてそれは、外出先だったとの答えが圧倒的に多い。この点に関しては、結果の概要で述べたとおり、一層深めた調査を要する。

また、「自分がオストメイトであることを知られてもよい範囲」の質問結果に注目したい。全体では半数強の者が「友人・知人はかまわない」と回答し、「家族だけにしておきたい」との回答も3割弱で際立っている。「職場の仲間も含めてだれに知られてもかまわない」と言う者はごく僅かに止まっている。この質問では、会員と非会員の間に顕著な違いがあり、非会員では「家族だけにしておきたい」と答えた者が4割強と最多になっていることに注目したい。ここに協会への入会を促すカギがあるように思われる。

「カミング・アウト」という言葉が広く使われるようになってきている。一般には多くの人々が他人に知られたくないと思う自己の病気や性向などを明らかにする（閉じ籠っている所から外に出る）ことだが、オストメイトの社会や周辺との係わりを同じ視点から考えることの重要性を思わせる。

「カミング・アウト」するかどうかは、あくまでも個人の問題である。ストーマを付けた生活は、そのことを明らかにしなくても普通の人づきあいができるのであるが、しかしかなり多くのオストメイトは、手術前の交際範囲を狭め行動範囲を限定しようとする傾向があることは、仲間の多くの経験談でも語られることである。不特定多数の人達と一緒に入る風呂を避ける傾向もこの問題の範疇としてもとらえられる。

普通の人間として隔てのない生活を送ることができるようには、いわゆる「ノーマライゼーション」の考え方で、障害者の尊厳と福祉の基本理念である。オストメイトにとっても、手術前と同じ生活を出来ることを確信し手術後の生活の質を保つため、医療者の責任は勿論のこと、同憂者の相互支援・助言が果たすべき役割は極めて大きい。今回上記のように、非会員に「家族だけにしておきたい」と思う者が会員に比べ格段に多く、「友人・知人はかまわない」との答えた非会員が会員より10%以上低いことは、会員のカミング・アウトの程度が少し高いことを示しており、協会の行っている講習会、経験交流会、相談活動等を通じて学んだその効果であると考えられる。協会を拡大しその活動を一層広く展開することの重要性を如実に示している。

5. ET/WOCナースの受診

これに関する質問では、ET/WOC看護師のケアやアドバイスを受けたことのある経験者が前回よりかなり増えており、また今回初めて受診の効果を感じた結果では、「一部解決」も含めて「解決できた」と答えた者が9割に達していて、オストメイトのQOL確保に果たすこの専門職の役割の高さがうかがえる。ただ、前にも述べたとおり「一部解決できた」ということは「解決できなかったこともあった」ということだが、その内容を聞いてみる必要があるだろう。その意味で、今回は期間を限らなかったが、今回は例えば「過去1年間の経験」をより具体的に聞いた方がより意味のある結果が得られると思う。

6. 生活上抱えている問題や悩み

これまでの調査と同じく、依然として「ストーマの管理が出来なくなった場合の不安」が一番に、次いで「高齢化で寝たきりや半身不随になること」が二番に多くなった。三番目が「災害時のストーマ装具の補給」の問題であり、これらは高齢化しているオストメイトにとって切実な問題である。

ただ「災害時のストーマ装具の補給」は、災害時の要援護者支援に関する通達や協会と装具メーカーとの協定で確保された。しかし、このことがオストメイトに周知され、また市区町村で具体化するにはまだ我々の努力が必要である。(第2部も参照)

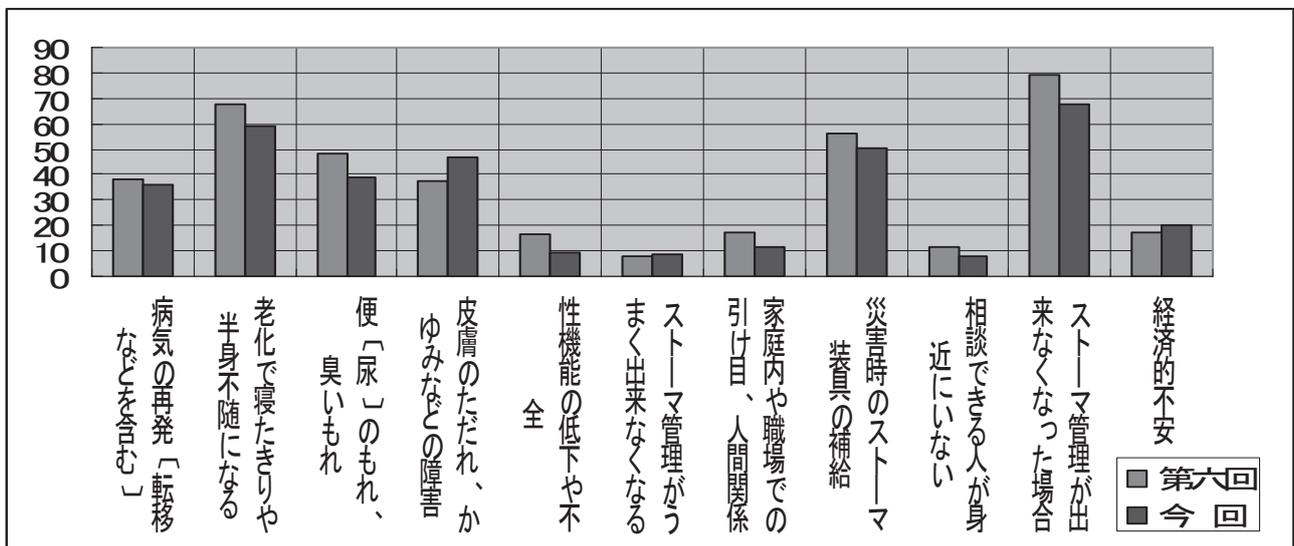
悩み・不安のトップ2は、平成13年から始まった介護保険制度での在宅介護におけるストーマ管理の問題でもある。介護保険では「パウチの交換」は、医療行為としていて、ホームヘルパーは交換できないことになっていたが、便、尿の排出処理、二品型の袋の交換は可能になった。しかし、一品型や二品型の面板(フランジ)の交換は依然として訪問看護の看護師が行うことになっているため、協会としても継続的に厚生労働省に働きかけると同時に、ストーマ知識が欠如している看護師にストーマ装具の交換について、看護協会等に研修を更に充実して欲しい旨要望したい。

看護師は要介護度にもよるが、一週間に1~2回の訪問となるが、オストメイトの装具交換頻度はこの調査データにも示すごとく個人でまちまちであり、かなり頻繁に行うオストメイトも多く、週に1, 2回の定められた時間以外は介助を受けられないということは非現実的な対応で、人間としての尊厳を保持する点からも対応が急がれる。

上記三番目までの悩み以外の事項を見ると、「便(尿)のもれ」「臭いもれ」と「皮膚のただれ、かゆみなどの障害」に高い数値を示し、無視できない。日常活動として実施している講習会や研修会を開催するときに留意しなければならない。(図1)

図1 生活上抱えている問題や悩み

【単位：％】



7. 国や自治体の福祉制度についての要望

表4-1に今回と過去2回の調査結果から、要望の多い順に5位までの変化を示した。「ストーマ装具給付制度の所得制限撤廃」と「所得税の障害者控除の引き上げ」のふたつは今回も上位にあるが、今回「人工膀胱や回腸人工肛門は3級に」との要望がトップに急上昇したこと、「JR運賃」と「オストメイト対応トイレ」に関する要望の順位がひとつずつ下がってきていることが注目される。

表41 国や自治体の福祉制度についての要望の上位5項目

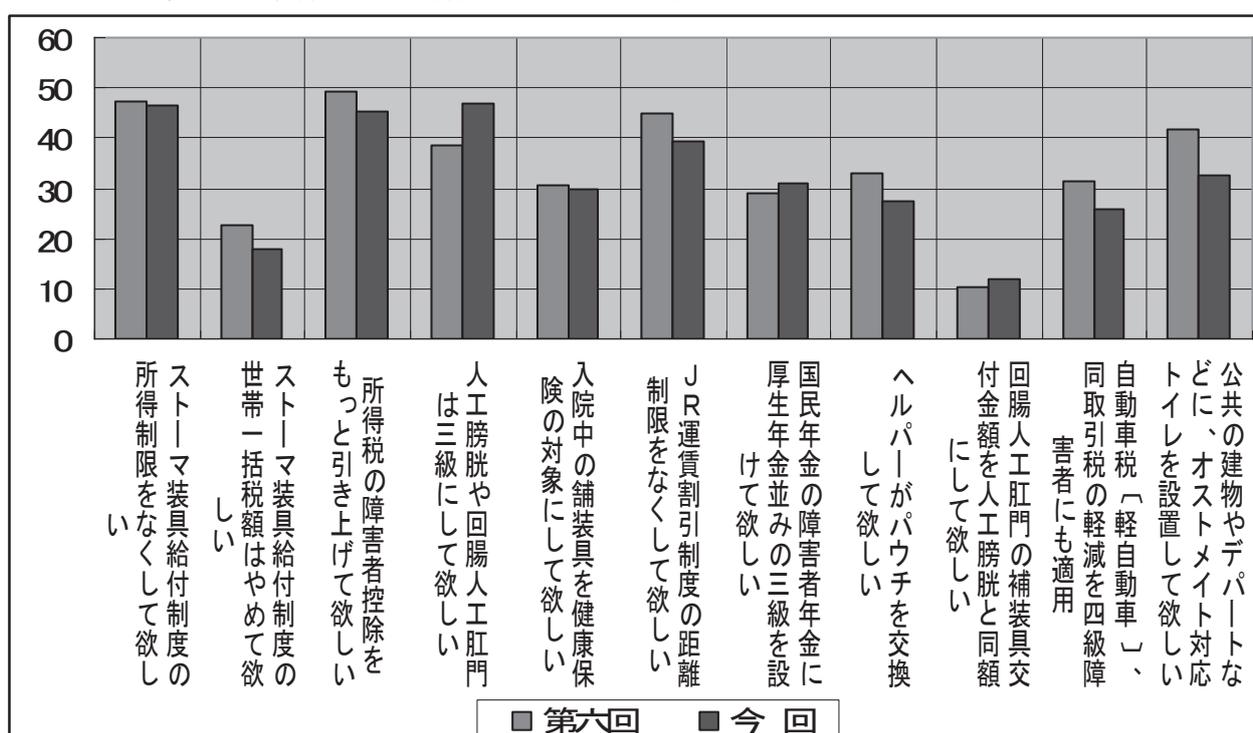
順番	今回	第5回	第4回
1	人工膀胱や回腸人工肛門は3級に	所得税の障害者控除額の引き上げ	ストーマ装具給付制度の所得制限の撤廃
2	ストーマ装具給付制度の所得制限の撤廃	ストーマ装具給付制度の所得制限の撤廃	J R 運賃割引の距離制限撤廃
3	所得税の障害者控除額の引き上げ	J R 運賃割引の距離制限撤廃	オストメイト対応トイレの設置
4	J R 運賃割引の距離制限撤廃	オストメイト対応トイレの設置	所得税の障害者控除額の引き上げ
5	オストメイト対応トイレの設置	人工膀胱や回腸人工肛門は3級に	人工膀胱や回腸人工肛門は3級に

障害者等級に関しては、前述のとおり上位等級に認定される者が増える傾向にあるが、今回の結果を受けて、引き続き要望することが必要である。

「オストメイト対応トイレ」に関しては、協会の運動の結果その整備が次第に進んでいることを反映して要望順位が下がっていると思われるが、「J R 運賃」と共に依然として3割から4割のオストメイトが要望する事項であり、トイレの未整備施設や市区町村及びJ Rに対する働きかけなどが必要である。(図2)

図2 国や自治体の福祉制度についての要望

【単位：％】



IV. 終わりに

本調査は、過去17年にわたり2～3年毎にオストメイトの生活実態について調査しているものであり、わが国は勿論、世界的にも貴重なデータを提供するものである。この間ストーマ装具の品質が飛躍的に向上し、また都道府県・政令指定都市の支援を得て当協会が実施しているオストメイト社会適応訓練事業の体験交流や健康福祉相談、医療講演などの啓発活動により、オストメイト自身の自助・互助活動が結実してその生活の質も向上し、社会参加の促進も図られている。また、身体障害者手帳の交付率や市区町

村からのストーマ装具等の受給率の向上も、協会の活動の成果である。

しかし、ストーマ装具等の給付事業では一方で市区町村間の格差が依然存在すること、市区町村の給付額では不足のオストメイトがいまだに7割余りいること、いわゆる13品目の給付を実施していない市区町村や、実施していてもそれを知らなかった者の方が多いことなどについては、今後とも協会の運動を一層強化し更なる改善につなげなければならない。

当協会では、本調査報告書を、協会関係者はもとより厚生労働省関係部局、自治体福祉関係部局、障害者福祉に関心をもたれている各方面に配布し、オストメイトの生活実態とそれに対する各種支援の状況と問題点を広く理解して頂き、オストメイトの福祉が更に充実されるようご協力とご支援をお願いしたいと考えている。

謝辞

この調査事業は、厚生労働省の「平成22年度障害者総合福祉推進事業」による補助金及びコンバテック ジャパン株式会社のご支援により実施することが出来たものであり、ここに深甚の謝意を表すものである。

問5 平成18年10月から、法改正によりストーマ用品（皮膚保護ペースト・パウダー・ウェハー、固定ベルト、サージカルテープ、カバー、消臭剤、専用ハサミ、剥離剤、皮膚皮膜剤、コンベックスインサート、レッグバッグ、ナイトドレーナージバッグ等の13品目）が給付されることになりました。あなたはこのことを知っていましたか。

- 1) 知っていた 2) 知らなかった

問5-2 問5で「知っていた」に○をつけた方に伺います。あなたは13品目のどれかの給付を受けていますか。

- 1) 受けている 2) 受けていない

問6 現在お使いのストーマ装具の「メーカー名」と「製品名」を、それぞれ1つだけ選んで、番号を○で囲んで下さい。

メーカー名	製品名	
	二品型（ツーピース）	単品型（ワンピース）
1. アルケア	1. プロケア2 2. セルケア2 3. ユーケアー2 4. その他（製品名）	1. ラパック 2. プロケア1 3. ポスパック 4. ユーケアー 5. バイオユーリン 6. セルケア1 7. その他（製品名）
2. エイパック	1. オスガード 2. その他（製品名）	1. エイパック 2. 防臭パック 3. その他（製品名）
3. コロプラスト	1. アシュラ 2. セーフティ 3. コンシール 4. イージーフレックス 5. その他（製品名）	1. アシュラ スタンダード 2. p c 3000 3. アシュラ ウロバッグ 4. m c 3000 5. アシュラ コンフォート 6. その他（製品名）
4. コンバテック	1. バリケア ナチュラ 2. デュラヘーシブ ナチュラ 3. バリケア オートロック 4. バリケア オートロック デュラヘーシブ 5. エステイム シナジー 6. その他（製品名）	1. アクティブライフ 2. エステイム 3. その他（製品名）
5. ダンサック	1. ダンサック デュオ 2. ダンサック ノバ1 3. その他（製品名）	1. ダンサック ソロ 2. ダンサック インベント 3. ダンサック ノバ2 4. その他（製品名）
6. 村中医療器 （ビー・ブラウン）	1. トレビアン2 2. アルマリス ツイン 3. その他（製品名）	1. コロプレフランス 2. ウロプレフランス 3. アルマリス 4. その他（製品名）
7. ホリスター	1. びたりん 2. ツーピース 3. ニューイメージ 4. その他（製品名）	1. しなやか 2. ストマドレイン 3. カラヤ 5ドレイン 4. モデルマ 5. その他（製品名）
8. その他（名前）	製品名：	製品名：

問7 現在お使いのストーマ袋（バッグ）は次のどれに当てはまりますか。（どれか1つの番号を○で囲んで下さい）

- 1) 人工肛門用：下部開放型バッグ〔ドレイン型バッグ〕 2) 人工肛門用：密閉型バッグ〔クローズ型バッグ〕
3) 人工膀胱用：バッグ

（注：従来「パウチ」と呼んでいたものを、学会では「ストーマ袋」と呼ぶことに決められたので、協会でも最近「バッグ」と言うことにしています。）

問8 現在お使いのストーマ装具に満足していますか。（どれか1つの番号を○で囲んで下さい）

- 1) 満足している 2) だいたい満足している 3) やや不満がある 4) 満足していない

問9 あなたは新商品などの色々なストーマ装具を試してみたいと思われませんか？次の中からお選びください。
(どれか1つの番号を○で囲んでください)

- 1) 試してみたいと思う 2) まあ試してみたいと思う 3) どちらでもない
4) あまり試してみたいと思わない 5) 試してみたいと思わない

問10 現在お使いのストーマ装具について、不満点はどのようなことでしょうか。自由にお書き下さい。

問11 なぜそのストーマ装具〔製品〕を選びましたか。(いくつでも番号を○で囲んで下さい)

- 1) 値段が安いから 2) 入院中から使用しているから 3) 皮膚に安心だから 4) 粘着力が強いから
5) 使用中のもれが無いから 6) 扱いやすいから 7) メーカーや販売業者のサービスが良いから
8) 外来で医師や看護師から勧められたから 9) 患者会・同窓会の仲間から勧められたから
10) 知り合いのオストメイトから勧められたから 11) 販売店（ショップ）から勧められたから
12) メーカーの営業マンから勧められたから 13) 製品サンプルを使用してよかったから
14) 会報の広告、情報誌を見て 15) インターネットのホームページを見て
16) わからない 17) その他（具体的に：)

問12 現在お使いのバッグはどのくらいの日数で交換しますか。(どれか1つの番号を○で囲んで下さい)

- 1) 1日に2回以上 2) 1日に1回 3) 2日に1回 4) 3日に1回 5) 4日に1回
6) 5日に1回 7) 6日に1回 8) 1週間に1回 9) それ以上 10) バッグは使わない

問13 ツーピース（二品型）をお使いの方だけにお伺いします。ツーピースのお腹に貼る面板（フランジ）は、どの位の日数で交換しますか。(どれか1つの番号を○で囲んで下さい)

- 1) 夏の汗をかく季節
(1) 1日に2回以上 (2) 1日に1回 (3) 2日に1回 (4) 3日に1回 (5) 4日に1回
(6) 5日に1回 (7) 6日に1回 (8) 1週間に1回 (9) それ以上 (10) フランジは使わない
2) その他の季節
(1) 1日に2回以上 (2) 1日に1回 (3) 2日に1回 (4) 3日に1回 (5) 4日に1回
(6) 5日に1回 (7) 6日に1回 (8) 1週間に1回 (9) それ以上 (10) フランジは使わない

問13-2 ツーピース（二品型）をお使いの方だけにお伺いします。現在ご使用の装具の面板とバッグの接合方法には、満足されていますか？(どれか1つの番号を○で囲んで下さい)

- 1) 満足している 2) だいたい満足している 3) やや不満がある
4) 満足していない（理由：)

問14 貴方がストーマ装具を評価する上で重視されるポイントを3つだけ選んでください。(番号を3つ○で囲んでください)

- 1) 粘着部による皮膚障害が発生しない 2) 粘着部の貼付できる期間が長い 3) 装着のしやすさ
4) バッグの形 5) バッグの色 6) フィルターの有無 7) フィルターの性能 8) バッグの肌触り
9) 排出口の使い易さ 10) その他（具体的に)

問15 人工肛門の方だけに伺います。洗腸を行っていますか。(どれか1つの番号を○で囲んで下さい)

- 1) 洗腸していない（自然排便） 2) 1日に1回行っている 3) 2日に1回行っている
4) 3日以上1回行っている 5) たまに洗腸を行っている

問16 洗腸をしている方だけに伺います。洗腸器具はどのメーカーのものをお使いですか。(どれか1つの番号を○で囲んで下さい)

- 1) アルケア（コロクリン） 2) コロプラスト（イリゲーションセット）
3) スクイブ・コンバテック（バリケア新洗腸セット）
4) ホリスター（洗腸セット） 5) その他（名前：)

問16-2 洗腸器具の買い替えの頻度はどのくらいですか。(どれか1つの番号を○で囲んで下さい)

- 1) 3ヶ月に1回 2) 半年に1回 3) 1年に1回 4) それ以上

問17 ストーマ装具などのオストメイトに関わる情報はどこから入手されていますか？当てはまる番号を、いくつでも○で囲んで下さい。

- 1) 販売店 2) メーカーのホームページ 3) 医療従事者（ストーマ外来含む） 4) オストメイト仲間

問18 一般社会にオストメイトのことが正しく理解されていると思いますか。

- 1) 理解されている 2) あまり理解されていない 3) 全く理解されていない

問19 今までにオストメイトのことが正しく理解されていないために困ったことはありましたか。

- 1) あった 2) なかった

問19-2 上記質問に、「1) あった」と答えた方は、それはどのような場面で経験しましたか。次の中から当てはまるものに○を付けて下さい。

- 1) 家族関係の中で 2) 職場で 3) 外出先で 4) 病院や施設で
5) その他（具体的に：)

問20 あなたは、オストメイトであることを、どの範囲までで知られてもかまいませんか。1つだけ○を付けて下さい。

- 1) 自分だけにしておきたい 2) 家族だけにしておきたい 3) オストメイトの仲間だけ
4) 友人・知人はかまわない 5) 職場の同僚もOK 4) 誰に知られてもかまわない

問23 オストメイトについて正しく理解してもらうためにはどのような広報が望ましいと思いますか。 (複数回答可)

- 1) テレビ・ラジオ 2) 新聞 3) 公共広告機構などのポスター 4) 市民講座など 5) インターネット
6) 公共広報誌（市民広報紙など）

問24 ETナース、皮膚・排泄ケア認定看護師（ストーマケアを専門とする看護師）のケアやアドバイスを受けたことがありますか。 1) はい 2) いいえ

問24-2 上記質問で「はい」と回答した方のみお答えください。ケアやアドバイスを受けたことにより、問題解決ができましたか。 1) 解決できた 2) 一部解決できた 3) 解決できなかった

問24-3 ストーマ外来を受診していますか 1) はい 2) いいえ

問25 生活上の抱えている問題や悩み事を教えて下さい。当てはまる番号を、いくつでも○で囲んで下さい。

- 1) 病気の再発（転移などを含む） 2) 高齢化が進み、寝たきりや半身不随になること
3) 便（尿）もれ 4) 臭いもれ
5) 皮膚のただれ、かゆみなどの障害 6) 性機能の低下や不全
7) ストーマ管理がうまく出来ないこと 8) 家庭内や職場での引け目、人間関係
9) 災害時のストーマ装具の補給が心配 10) 相談できる人が身近にいない
11) 一人でストーマの管理が出来なくなった場合の不安 12) 経済的不安
13) その他（具体的に：)

問26 国や自治体の福祉制度についての要望をお伺いします。当てはまる番号を、いくつでも○で囲んで下さい。

- 1) ストーマ装具給付制度の、所得制限をなくしてほしい
2) ストーマ装具給付制度の、世帯一括税額をやめてほしい
3) 所得税の障害者控除を、もっと引き上げてほしい
4) 人工膀胱や回腸人工肛門保有者は、3級にしてほしい
5) 入院中やストーマ外来での補装具を、健康保険の対象にしてほしい
6) JR運賃の割引制度の、距離制限をなくしてほしい
7) 国民年金の障害年金に、厚生年金なみの、3級を設けてほしい
8) ヘルパーにストーマ装具交換をしてほしい
9) 回腸人工肛門保有者のストーマ装具給付金額を、人工膀胱保有者と同額にしてほしい
10) 自動車税（軽自動車税）、同取引税の軽減を4級障害者にも適用してほしい
11) 公共の建物やデパートなどには、オストメイト対応トイレを設置してほしい
12) その他（具体的に：)

問27 ストーマ装具メーカーに対して何かご要望等がございましたら、ご自由にお書きください

第2部 オストメイトに対する日常生活用具給付事業等 に関する調査報告書

I はじめに

人工肛門や人工膀胱により排泄管理をせざるを得ないオストミー患者は、身体障害者に認定され、健康で正常な生活を送るために日常的に必要な不可欠であるストーマ装具の入手に、国と地方自治体の財政的支援を受け、また税制上の恩典や各種の負担軽減措置を受けることができ、社会生活上の様々な制約を軽減する措置も色々ととられている。

中でも全国の市区町村は、国と都道府県の補助金を受けてストーマ装具（制度上は「日常生活用具」という）の給付事務を直接担当し、災害時支援やオストメイト対応トイレの整備においてももっぱら責任を負っている。オストメイトに対する健康・福祉の施策は徐々に進展し、その生活の質は向上しているが、例えば市区町村のストーマ装具（日常生活用具）給付事業の改善や災害時の救援体制及びオストメイト対応トイレの整備などに対する要望が依然として強いことが、第1部「第7回オストメイト生活実態基本調査報告書」に示されている。

今回、厚生労働省の「平成22年度障害者総合福祉推進事業」による補助金を受けて、全国の市区町村を対象に、オストメイトに最も身近な施策の実情を調査することとした。本報告書第1部の調査でオストメイトの生活実態とニーズを把握し、この第2部の調査でオストメイトのニーズに対応する市区町村の施策の現状を明らかにし、今後の国や地方公共団体の政策立案の参考として頂きたいと考えたものである。

☆ 調査方法

- * 全国市区町村1750（平成22年10月現在）に調査票（巻末に掲載）を送り、回答用紙の返送を求める方法。
- * 回答のあった市区町村数 1418（回答率：81.0%）
- * 調査委員会：この調査でも第1部の冒頭に記した調査委員会が、調査の企画と実施及び結果の分析に当たった。

☆ 調査事項

1. 日常生活用具給付事業

給付基準額、1回当たりの給付月数、洗腸用具の支給、ストーマ用品（13品目）の支給、及び高齢者入所施設等の入居者への給付

2. 災害時のストーマ装具などの供給体制整備

オストメイトの避難所及び避難所での装具備蓄やトイレ対策

3. オストメイト対応トイレの整備

公共施設でのトイレ設置状況、設置しているトイレの設備及び今後の計画

☆ 調査期間

平成22年11月～平成23年1月（この間、12月10日の締切りまでに回答のなかった市区町村に督促状を送付）

II 調査結果の概要

1. 日常生活用具（ストーマ装具）給付事業

(1) 給付基準額

ストーマ装具の給付基準額区分ごとの市区町村数を表I及び2に示す。コロストーマ用バッグの場合、従来の国の給付基準額（8,600円）及びその額に3%を加算した額（8,858円）の範囲内に、85.4%の市区町村が入っている。また、8,860円及び8,900円の基準額は8,858円の端数を切り上げて設定したものととらえると、上記の割合が91.5%になる。

コロストミー・バッグでは、8,900円を超える額にしている市区町村が4.6%ある一方、最低の基準額を下回る市区町村が約1%ある。

表1 コロストミー・バッグ（蓄便袋）

給付基準額 (円)	8,600 未満	8,600	8,850	8,858	8,860	8,900	8,901～ 10,000	10,001 以上	無回答	合計
市区町村数	13	398	36	777	30	57	43	22	42	1,418
比率(%)	0.9	28.1	2.5	54.8	2.1	4.0	3.0	1.6	3.0	100.0

ウロストーマ用バッグの場合では、従来の国の給付基準額（11,300円）及びその額に3%を加算した額（11,639円）の範囲内に、85.5%の市区町村が入っている。コロストーマ・バッグと同じように、11,700円及び12,000円は、11,639円の端数を切り上げたものだとすると、上記割合は92.2%になる。ここでも、12,000円を超えるところが1.2%ある一方で、最低基準を満たさない市区町村が1.1%ある。

表2 ウロストミー・バッグ（蓄尿袋）

給付基準額 (円)	11,300 未満	11,300	11,600	11,639	11,700	11,701～ 12,000	12,001～ 14,999	15,000 以上	無回答	合計
市区町村数	15	405	39	767	69	26	12	5	80	1,418
比率(%)	1.1	28.6	2.8	54.1	4.9	1.8	0.8	0.4	5.6	100.0

(2) 自己負担割合

市区町村の給付基準に定められているオストメイトの自己負担割合を、表3に示す。

受益者の納税額区分により自己負担割合が異なるところが47%近くある。1割負担としている市区町村が次いで多く、約40%である。一方、自己負担なし、または1割以下のところは約12%である。

表3 自己負担の有無と自己負担割合

自己負担割合	自己負担なし	1割未満	1割	1割超	税区分による	無回答	合計
市区町村数	70	96	565	4	661	22	1,418
比率(%)	4.9	6.8	39.8	0.3	46.6	1.6	100.0

(3) 1回当りの給付月数

オストメイトは、市区町村役場に申請してストーマ装具の給付を受けるのだが、何カ月分かを一度に給付するところが多い。表4のとおり、一回で半年分を支給する市区町村が半数近くある。次いで2か月分、4か月分の順が多い。

表4 1回当りの給付月数

支給月数	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	6ヶ月	無回答	合計
市区町村数	146	339	20	219	669	25	1418
比率(%)	10.3	23.9	1.4	15.4	47.2	1.8	100.0

(4) 洗腸用具の給付

洗腸用具の給付ありと答えた市区町村の割合は56%である。

表5 洗腸用具の給付

洗腸用具の給付	あり	なし	無回答	合計
市区町村数	799	586	33	1,418
比率(%)	56.3	41.3	2.3	100.0

(5) ストーマ用品（13品目）の給付

この質問に対しては、給付「あり」と答えた市区町村の割合は64%であった。

表6 ストーマ用品（13品目）の給付

ストーマ用品給付	あり	なし	無回答	合計
市区町村数	912	457	49	1,418
比率(%)	64.3	32.2	3.5	100.0

(6) 高齢者入所施設等の入居者への給付

この事項は、平成22年に支部からの報告で、一部自治体においては高齢者入所施設に入居しているオストメイトがストーマ装具の給付対象から外されているという実態が判明したため、今回の調査に含めたものである。結果は、1割の市区町村が「なし」と答えた。

表7 高齢者入所施設等の入居者への給付

入居者への給付	あり	なし	無回答	合計
市区町村数	1,237	148	33	1,418
比率(%)	87.2	10.4	2.3	100.0

2. 災害時のストーマ装具などの供給体制整備

(1) オストメイトの避難所

表8のとおり、8割を超える市区町村がオストメイトの災害時避難所として、福祉避難所又は一般の避難所を想定している。

表8 オストメイトの避難所

	福祉避難所	一般避難所	その他	無回答	合計
市区町村数	288	870	221	80	1,418
比率(%)	20.3	61.4	15.6	5.6	100.0

(2) 避難所での装具の備蓄

「対応済」と答えた市区町村は7%弱に止まり、「計画中」が18%、「当面予定なし」が7割を占める。

表9 避難所におけるストーマ装具供給対策

	対応済	計画中	当面予定なし	無回答	合計
市区町村数	96	257	992	73	1,418
比率(%)	6.8	18.1	70.0	5.1	100.0

3. オストメイト対応トイレの整備

(1) 公共施設でのトイレ設置状況

外出時のオストメイトのバリアフリーを確保するために、協会の主導で政府の対策に加えられ、次第に設置が進んでいるこのトイレだが、公共施設にまだ設置していない市区町村が3割強ある（表10）。

また、公共施設にこのトイレを設けているところに、設置トイレの数を質問した結果では、1～5が7割近くを占め、次いで6～10が多い（表11）。なお、表には示していないが最も多く設置している自治体では、186と報告されている。

表10 公共施設のオストメイト対応トイレ設置

	設置している	設置していない	無回答	合計
市区町村数	945	461	12	1,418
比率 (%)	66.6	32.5	0.8	100.0

表11 設置しているトイレの数

トイレの数	1～5	6～10	11～15	16～20	21～30	31以上	無回答	合計
市区町村数	656	124	56	22	30	23	34	945
比率 (%)	69.4	13.1	5.9	2.3	3.2	2.4	3.6	100.0

(2) トイレの設備

この種のトイレには、オストメイトの特別なニーズに応えられるように、下記のリストに示すような設備を設けることが推奨されている。公共施設にこのトイレを設けている市区町村の内、7割以上が設置している設備（マークしたものは）10種類ある。その他のものの設置率はかなり低い。

トイレの設備（トイレを設置している市区町村945の複数回答）

設備の種類	市区町村数	割合 (%)
① 汚物洗浄台	806	85.3
② ハンドシャワー	786	83.2
③ 電気温水器	684	72.4
④ 物置棚	664	70.3
⑤ 鏡	822	87.0
⑥ ペーパーホルダー	771	81.6
⑦ 水石鹼と消毒剤	665	70.4
⑧ フック2箇所	298	31.5
⑨ 足踏み開閉式ステンレス汚物入れ	248	26.2

⑩ 換気扇	742	78.5
⑪ 手洗い器	808	85.5
⑫ 手の乾燥機	181	19.2
⑬ ベンチ又は低めのベッド	284	30.1
⑭ 入口のマークと解説	716	75.8

(3) 未設置市区町村の今後の計画

表10で示したオストメイト対応トイレ未設置市区町村461の、今後の計画を質問した結果である(表12)。7割近くが計画なしと答えている。

表12 未設置市区町村の今後の計画

	あり	なし	無回答	合計
市町村数	98	317	46	461
比率(%)	21.2	68.8	10.0	100.0

III 考察と提言

1. ストーマ装具(日常生活用具)給付事業

オストメイトの尊厳と健全な生活を護り、制約のない行動を確保するために、排泄を管理するストーマ装具の供給は最も重要な事柄であり、そのため全てのオストメイトは身体障害者に認定され、それに基づいて市区町村からストーマ装具の給付を受けられることになっている。

ストーマ装具は、不随的に排出される便や尿を受け止め溜めるためのストーマ袋及びフランジ(面板)、その他皮膚保護ペースト、消臭剤、剥離剤、皮膚皮膚膜剤、専用はさみ等のストーマとその周辺皮膚等を正常な状態に保つために必要な製品、また洗腸を行うオストメイトにはそのための特殊な用具などである。

これら装具給付の事務を直接担当する市区町村は、給付対象者、給付の基準額、給付申請の方法などを定め、この給付事業を実施している。そこで当協会としては、全国の市区町村の実施状況を把握することは、オストメイトの健康と福祉を確保・推進するために重要な任務である。以下、調査項目に従って結果を考察し必要な提言を行う。

(1) 給付基準額と自己負担額

コロストミーとウロストミーのいずれも、給付基準額は9割余りの市区町村で、国の補助金交付基準額(及びそれに3%を加えた額)又はその端数繰り上げ値に設定しているが、一方で少ない数ではあるが最低額を下回る場所がある

ことは問題である。

また、給付を受けるにあたり、経費の自己負担割合が1割を超えるところがわずかにあり、また納税額区分により給付対象者の制限（納税額の低い者に限る）や給付額の削減をしている市区町村が一番多い。

自己負担額については、第1部基本調査の結果にあるように、実際には基準額の1割を大幅に超える額を負担しているオストメイトが極めて多いこと、及び所得制限の撤廃を望む声が高いことに注目しなければならない。ストーマ装具は、平成18年の障害者自立法の施行以前は、身体障害者の補装具の範疇に入れられていたものであり、所得や家計の状況にまったくかかわりなく全てのオストメイトに等しく必須の生命維持装具である。

従って、給付基準額の上方修正と所得制限の廃止を、国、都道府県及び市区町村当局に強く要望したい。障害者は社会全体でケアし、ノーマライゼーションを保証するとの考え方に立ち、早急な改善を望む。

なお、今回得られた市区町村ごとの回答を個別に精査し、ピンポイントで要望活動を展開する必要がある、協会の今後の活動重点としたい。

(2) 洗腸用具及びストーマ用品（13品目）の給付

洗腸を行っているコロストミー患者は次第に減ってはいるが（第1部基本調査参照）、2割ほどの者がこれによって生活の質を保っているので、給付を行っていない自治体ではこれもストーマ装具の給付に含めて是非実施していただきたい。

同様に、その他のストーマ用品（13品目）についても、給付を行っていないところでは、給付対象に加えて欲しい。また第1部基本調査によると、6割近くの回答者がこれの給付を受けられることを知らなかったと回答しており、自治体の周知努力を望むとともに、協会の活動のなかでも留意したい。

(3) 高齢者入所施設等の入居オストメイトへの給付

平成18年の制度改変により、ストーマ装具は従前の補装具から「日常生活用具」に移された。その際市区町村が給付基準を定めるに当たり、従来からあった他の日常生活用具の給付対象を「在宅」の者に限るとしていた制限を、ストーマ装具については外す必要があったのであるが、この調査で約1割の市区町村がそれを行っていないとの結果である。この点に関しては、該当市区町村を特定して、直接指導する立場にある都道府県当局に改善を要望するとともに、協会としても市区町村に働きかける必要がある。

2. 災害時のストーマ装具などの供給体制整備

このことについては、巻末の調査票に、協会としてこれまでに行った自助、共助及び公助の努力について記載し、市区町村にこの面での対策をとっていただく必要性を指摘した。また、第1部基本調査の「生活上抱えている問題や悩み」でもオストメイトの3大危惧のひとつが「災害時のストーマ装具の補給」となっている。

調査の結果は、避難所へのストーマ装具備蓄・保管などの施策はまだまのようである。台風、地震、津波、火山噴火、水害などの自然災害に見舞われることの多い我が国において、オストメイトの健康を生命をまもる必需品であるストーマ装具の、身近な場所での確保の重要性は極めて大きい。協会からの働きかけを強めるとともに、この面への自治体の一層のご留意をお願いしたい。

3. オストメイト対応トイレの整備

第1部基本調査の「国や自治体の福祉制度についての要望」の結果では、公共施設やデパートなどでのこのトイレの整備の要望が相変わらず多い。公共施設にこれを設置していない自治体がまだ相当数あるので、国の財政支援なども利用して是非整備を進めていただきたい。外出時のストーマのトラブルに適切に対処するために、このトイレの存在ほど有難いものはないので、今後の計画がないと答えた市区町村においてもご検討いただきたい。

トイレに設けられている設備について、協会として推奨しているものの設置割合を見ると、比較的重要なものは多くのトイレに設けられている。しかし、この種のトイレの普及が進むに従って、さまざまなタイプのものが開発・販売されるようになっており、そろそろこれらトイレのレビューを行う必要があると感じる。

IV 終わりに

本報告書は、我々オストメイトに最も身近なところで、我々の健康と福祉のためにご努力いただいている全国の市区町村における施策を、初めて包括的に調査した結果である。上記Ⅲに述べたことに留意しつつ、市区町村とは今後とも手を携えて我が国のオストメイトのQOL向上に努めたい。是非更なるご理解とご支援を頂きたい。

この調査を行うに当たり、市区町村の担当の方々には大変ご苦勞をかけたと思う。ご協力に深く感謝したい。また、第1部とともにこの調査に必要な経費を補助して下さった厚生労働省にも、深甚の謝意を表するとともに、この報告書が身障者のための新たな施策策定の議論の中で活かされるよう強く期待する。

全国市区町村長 殿

社団法人 日本オストミー協会
会長 和田 透

オストメイトに対する 日常生活用具給付事業等に関する調査（依頼）

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

早速ですが、当法人はこのたび、厚生労働省所管の「平成 22 年度障害者総合福祉推進事業」による補助金の交付を受けて、標記の調査を実施することにいたしました。

当社団法人は、癌などを原因として便や尿の通常の排泄経路が使えなくなり、腹部にストーマと呼ぶ排泄孔を造る手術を受け、そこにストーマ装具を装着して排泄物を処理することとなった患者（オストメイト）の組織です。人間生存の基本的な生理作用である排泄を、健常者と異なる方法で管理しなければならないので、それが問題なく出来ることは私たちの人間としての尊厳にも係わることです。日本オストミー協会は 1969 年に設立され、1989 年に厚生省（当時）の認可を受け法人化されましたが、設立以来、同憂者が助けあいつつ運動を進め、身体障害者手帳の交付、各種福祉サービス、税法上の優遇措置などが受けられるようになり、オストメイトのスムーズな社会復帰と適切なストーマケア等に役立っています。

国と都道府県及び市区町村が経費を分担して実施して下さっている「日常生活用具給付事業」は、ストーマ装具と生涯を共にしなければならない我々にとって、最も重要な事業であり、これが適切かつ円滑に行われることは良好な QOL（生活の質）確保の基本です。

従って、また災害時にこれの供給が保証されることも、我々の生存にとって極めて重要であり、そのための事業も市区町村に進めていただいております。

また当協会では、オストメイトが外出時に排泄物の処理とストーマ周辺の洗浄に困らないよう、特別仕様の「オストメイト用トイレ」の設置ガイドラインを国に定めていただき、公共団体や鉄道・高速道路などの経営体のご理解を得てその設置が進んでおります。トイレの問題では、災害時においてオストメイトのニーズに応えられる仕様のトイレの用意も求められています。

しかしながら、「日常生活用具給付事業」の実施実態には明らかな差異が見られ、災害時に備えたストーマ袋などの装具供給体制の整備はいまだ多くの市区町村が取組んでおられません。この調査は、オストメイトの基本的な QOL 確保と社会生活上の適応に必須のこれら事業について、全ての市区町村を対象に初めて行うものです。この調査結果が、政府及び地方自治体の新たな総合福祉施策策定の論議に役立ち、我々オストメイトの福祉向上につながることを期待しています。

なお、本調査と並行して、患者のニーズなどを把握するため「オストメイトの生活実態基本調査」を無作為抽出した患者を対象に実施中です。これらふたつの調査結果は、統計処理の上、今年度末までに報告書及び協会のウェブサイトで公表いたします。

ご面倒をかけますが、別紙調査票にご回答を記入の上、同封の封筒にて、期限までにご返信くださるようお願いいたします。

返信期限：平成 22 年 12 月 10 日（金）

最後に、今後ともオストメイトの健康と福祉のためさらなるご理解とご協力をお願いするとともに、貴自治体のますますのご発展を祈念いたします。

敬具

オストメイトに対する
日常生活用具給付事業等に関する調査（回答用紙）

回答期限：平成 22 年 12 月 10 日

都道府県名 _____（ _____ 郡）市区町村名 _____

I. 日常生活用具給付事業

（解説）この事業は、平成 18 年 10 月に完全実施された「障害者自立支援法」によって、日常生活用具と規定されたストーマ袋等のストーマ装具の給付を、市区町村の事業として行うこととされました。その後、当協会支部の報告やストーマ装具販売店を通じた調査によると、市区町村により給付基準額、自己負担率及び給付品目等に顕著な違いが見られます。その違いを明らかにし、さらなる改善につなげることが本項の目的です。

問 1. 貴市区町村の給付基準額

畜便袋（月額） _____ 円、 畜尿袋（月額） _____ 円

問 2. 患者自己負担（次の該当するものに○を付けてください）

- ① 自己負担なし
② 自己負担あり
③ 1 割以下 ④ 1 割 ⑤ 1 割以上 ⑥ 納税額区分による

問 3. 1 回当たりの給付月数 _____ か月分

問 4. 洗腸用具の給付（どちらかに○を付けてください） ①あり ②なし

問 5. ストーマ用品（13 品目）の給付（どちらかに○を付けてください） ①あり ②なし

（上記 4 及び 5 に関する注記：平成 18 年の制度改正以前は、洗腸用具はストーマ装具の代替品扱いとされストーマ装具との併給は認められていませんでしたが、同年の給付対象ストーマ装具等の見直しにより、併給を認める決定がなされました。同時に、ストーマ袋と洗腸用具以外の 13 品目のストーマ用品（皮膚保護ペースト・パウダー・ウェハー、固定ベルト、サージカルテープ、カバー、消臭剤、専用ハサミ、剥離剤、皮膚皮膜剤、コンベックスインサート、レッグバッグ、ナイトドレーナージバッグなど）も給付対象になりました。）

問 6. 高齢者入所施設等の入居者への給付（どちらかに○を付けてください）

①あり ②なし

（注：この点についても、「在宅」のオストメイトに限らず高齢者入所施設等の入居者も、上記全ての品目の給付対象にするとの国の基準・ガイドラインを誤解し、一部の市区町村において給付除外としているところが見られます。）

問 7. コメント（上記の貴市区町村の施策に関し、今後の改善計画などコメントがあればご記入ください。）

以上の回答担当部署名 _____

回答記入担当者職・氏名 _____

連絡電話番号・E-mail _____

II. 災害時のストーマ装具などの供給体制整備

(解説) 多くのオストメイトが抱えている不安のひとつが、災害時のストーマ装具の確保です。協会では、①「自助」：普段からオストメイト自身の自助努力で備えを怠らないようにすることを強調するとともに、②「共助」：災害時に行政サイドと連携しつつ、本部と被災地支部に装具業者を加えた救援体制のもと、被災した会員と非会員のオストメイトに対して装具等の緊急供給などを行う体制を整備しています。これに加えて③「公助」の面では、国が平成18年に定めた「災害時オストメイト避難支援対策」を都道府県で具体化するよう要望を重ねています。その内容は、1) 避難所にストーマ装具を備蓄する「避難所備蓄/供給方式」と、2) 一次避難所となる公共施設などに個人専用の装具等を個別保管する「避難所個別保管方式」の確立です。この個別保管方式は、日常生活用具給付事業に携わっておられる方なら容易に解るように、オストメイトが使用する装具類は千差万別なので、自分用のものを保管しておけば安心というわけです。

また、避難所にオストメイト用の仮設ポータブルトイレの設置も要望しております。これら「公助」の対策は、市区町村で具体的に対応していただくことの多いものですから、この質問項目を設けました。

問1：貴市区町村では、オストメイトの避難所をどこに想定していますか。(次のいずれかに○を付けてください。)

① 福祉避難所 ② 一般の避難所

② その他(具体的には、_____)

問2：貴市区町村では、一般の避難所や福祉避難所に上記のような対策を講じていますか。

(次のいずれかに○を付けて、()にご記入ください。)

① 対応済みである。(具体的には、_____)

② 計画中である。(具体的には、_____)

③ 当面予定はない。(理由は、_____)

質問IIの回答担当部署名 _____

回答記入担当者職・氏名 _____

連絡電話番号・E-mail _____

Ⅲ. オストメイト対応トイレの整備

(解説) オストメイトは外出時のトイレの使用に大変不便を感じています。それは、ストーマが腹部に造られているため、一般のトイレは勿論、障害者用トイレも大変使いづらいからです。幸い、当協会も当初の計画段階から参画した国の「バリアフリー対策」によって、全国の公共施設、公共トイレや高速道路SA、鉄道駅等に下記のようなマークを入口に掲げたオストメイトトイレが着々と整備されています。国は、平成23年度までの特別基金を設けて、地方自治体の公共施設へのこのトイレの整備を財政的に支援しています。



問1. 貴市区町村では、公共施設にオストメイトトイレを設置していますか。(どちらかに○をつけて下さい。) ① はい ② いいえ

問2. 上記質問で「①はい」の場合、どのような施設に設置していますか。設置施設の種類とオストメイトトイレの総数をご記入ください。

1) 設置施設の種類： _____

2) 該当トイレの総数： _____ 箇所

問2-2. 上記のトイレには、次のような設備が備わっていますか。(該当するものに、全て○を付けてください。)

- ① 汚物洗浄台 ② ハンドシャワー ③ 電気温水器 ④ 物置たな ⑤ 鏡
- ⑥ ペーパーホルダー ⑦ 水石鹸と消毒剤 ⑧ フック2か所
- ⑨ 足踏み開閉式ステンレス汚物入れ ⑩ 換気扇 ⑪ 手洗い器 ⑫ 手の乾燥機
- ⑬ ベンチ又は低めのベッド ⑭ 入口のマークと解説

問3. 「②いいえ」の場合、今後公共施設にこのトイレを設ける計画はありますか。

① ある (具体的にどのような施設に： _____)

② ない

質問Ⅲの回答担当部署名 _____

回答記入担当者職・氏名 _____

連絡電話番号・E-mail _____

質問は以上です。ご協力に感謝いたします。なお、本調査に関するお問い合わせは、下記にお願いします。

(社) 日本オストミー協会福祉部

部長 高石道明 電話：0267-45-5431, 090-4170-4910, mktakaishi@nifty.com

または部員 松村光廣 電話：03-3482-4451, hiro-m@muf.biglobe.ne.jp

人工肛門・膀胱造設者の生活と福祉

第1部 第7回オストメイト生活実態基本調査報告書

第2部 オストメイトに対する日常生活用具給付事業
等に関する調査報告書

2011年3月25日 発行

編集・発行 社団法人日本オストミー協会

124-0023 東京都葛飾区東新小岩 1-1-1

トラスト新小岩 901

電話 03-5670-7681 Fax 03-5670-7682

E-mail: ostomy@joa-net.org

URL: <http://www.joa-net.org/>

印刷 株式会社 マルチプレス

105-0014 東京都港区芝 3-12-12

電話 03-3455-5381

● 無断転載・複写・複製を禁ず